

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2012 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 24 弾～

2012 年 7 月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

目 次

■ 調査概要	1
■ 調査結果	4

I この夏のボーナス

1. この夏のボーナスの手取り額	5
2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較	7
3. ボーナスの今後の見通し	8
4. 今回のボーナスの主な使い道	10
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額	14
6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額	16
7. これまでの“夏のオリンピック”を振り返って最大の功労金を払いたい選手・チーム	19
8. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると	20

II わが家の家計と金融資産

1. 家計についての現状認識	22
2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出	24
3. 今後の家計の見通し	25
4. 世帯の金融資産の増減	27
5. “休眠預金”があるか	29

III 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況	32
2. 『夫に内緒の資産』の保有額	34
3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的	35
4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか	36
5. 『夫に内緒の資産』の増減	38
6. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し	41

IV 東日本大震災後の主婦のライフスタイル

1. 今年実施したいと思っている節電やエコ等に関わる工夫	43
2. 『スマートフォン』を持っているか	45
3. 1日のうち“自分の時間”はどのくらいあるか	48
4. “D I Y”をしたこと	51

調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002 年 3 月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

24 回目となる今回は、2012 年夏に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の 20 歳から 59 歳の主婦 500 人

＜サンプル配分＞

合計	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成 24 年6月8日(金)～6月 13 日(水)

(4) 調査項目

- ・この夏のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
- ・これまでの“夏のオリンピック”を振り返って最大の功労金を払いたい選手・チーム
- ・今年の夏のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・世帯の金融資産の増減
- ・“休眠預金”の実態
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・東日本大震災以後の節電やエコの工夫
- ・スマートフォンの所有の有無と利用用途
- ・1 日のうちの自分の時間
- ・“DIY”をしている状況
- ・回答者と回答者世帯の基本属性(妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等)

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

F 1. 妻の年齢

サンプル 数	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	平均 (歳)
500	9	116	49	76	66	59	85	40	39.9
100.0	1.8	23.2	9.8	15.2	13.2	11.8	17.0	8.0	

F 2. 妻の職業

サンプル 数	正規 有職	パート	専業 主婦
500	87	137	276
100.0	17.4	27.4	55.2

F 3. 夫の年齢

サンプル 数	20代	30代	40代	50歳 以上
500	82	146	128	144
100.0	16.4	29.2	25.6	28.8

F 4. 夫の勤務先での役職

サンプル 数	役職 なし	係長・主 任クラス	課長 クラス	部長クラ ス以上
500	215	132	87	66
100.0	43.0	26.4	17.4	13.2

F 5. 夫の勤務先の業種

サンプル 数	水産・ 農林・ 鉱業	建設業	製造業	電気・ ガス業	運輸・ 情報 通信業	商業	金融・ 不動産・ サービス 業
500	1	38	186	12	53	61	149
100.0	0.2	7.6	37.2	2.4	10.6	12.2	29.8

F 6. 世帯構成

サンプル 数	夫婦 のみ	夫婦と子	3世代・ 4世代同 居	親夫婦と 子夫婦・ 自分たち 夫婦と親	その他
500	170	284	30	11	5
100.0	34.0	56.8	6.0	2.2	1.0

F 7. 扶養中の子ども

サンプル 数	いる	いない
500	274	226
100.0	54.8	45.2

F 8. 住まいの形態

サンプル 数	一戸建 て持ち家	一戸建 て借家	分譲集 合住宅	賃貸集 合住宅	社宅・寮
500	221	13	107	142	17
100.0	44.2	2.6	21.4	28.4	3.4

F 9. 住宅ローンの有無

サンプル 数	ある	ない
500 100.0	229 45.8	271 54.2

F 10. 世帯年収

サンプル 数	400万円 未満	400～ 600万円 未満	600～ 800万円 未満	800～ 1000万 円未満	1000万 円以上
500 100.0	54 10.8	158 31.6	113 22.6	84 16.8	91 18.2

F 11. 居住地（地区ブロック）

サンプル 数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・ 沖縄
500 100.0	16 3.2	19 3.8	223 44.6	82 16.4	106 21.2	18 3.6	9 1.8	27 5.4

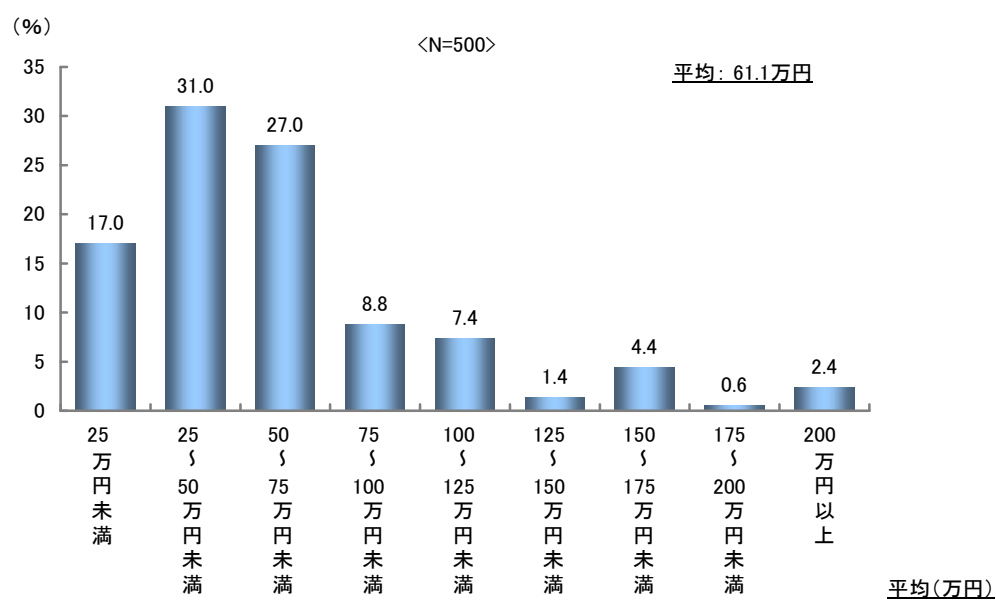
調査結果

I この夏のボーナス

1. この夏のボーナスの手取り額

この夏のボーナス平均受給額(手取り)は、「61.1 万円」。

図 1. この夏のボーナスの手取り額



妻の年代	20代 <n=125>	25.6	37.6	27.2	3.2	2.4	0.8	1.6	0.8	0.8	46.9
	30代 <n=125>	16.8	33.6	35.2	7.2	4.0	1.6	0.8	-	0.8	48.7
夫の役職	40代 <n=125>	11.2	29.6	23.2	12.8	8.8	1.6	5.6	0.8	6.4	77.6
	50代 <n=125>	14.4	23.2	22.4	12.0	14.4	1.6	9.6	0.8	1.6	71.3
夫の役職	役職なし <n=215>	26.0	40.0	24.2	4.2	3.3	0.5	0.9	-	0.9	45.6
	係長・主任クラス <n=132>	15.2	33.3	31.8	8.3	4.5	2.3	2.3	0.8	1.5	54.1
	課長クラス以上 <n=153>	5.9	16.3	26.8	15.7	15.7	2.0	11.1	1.3	5.2	88.9

※『この夏のボーナス』とは 2012 年夏に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他のご家族が受給したボーナスは含みません。

夫が受給したこの夏のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。

「25～50 万円未満」(31.0%)が最も多く、続く「50～75 万円未満」(27.0%)を合わせると、“25～75 万円未満”が6割近く(58.0%)を占めています。以下「25 万円未満」(17.0%)、「75～100 万円未満」(8.8%)、「100～125 万円未満」(7.4%)などが続き、平均は「61.1 万円」となっています。

・妻の年代別に受給額の平均をみると、《20 代》(46.9 万円)、《30 代》(48.7 万円)は“40 万円台”ですが、《40 代》(77.6 万円)、《50 代》(71.3 万円)になると“70 万円台”と、20 万円以上の開きがあります。

・夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(45.6 万円)と《課長クラス以上》

(88.9 万円)では 40 万円以上の差があります。

■昨夏の調査結果との比較■

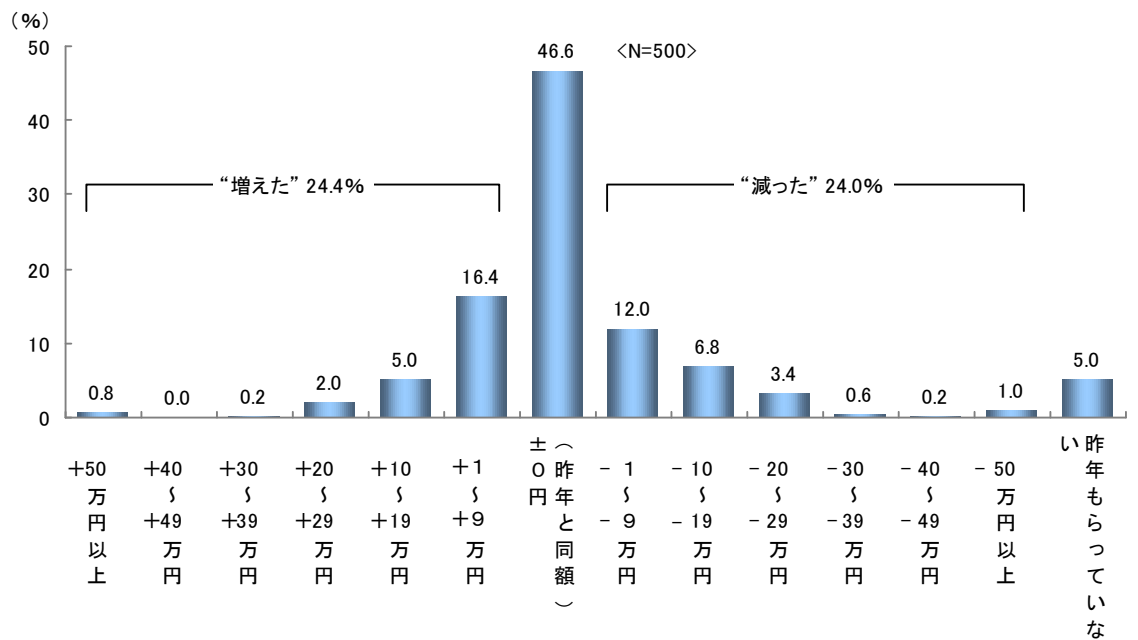
平均額は 67.6 万円→61.1 万円と、6.5 万円減少しています。

2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較

「昨年と同額」がほぼ半数(46.6%)を占めるが、“増えた”(24.4%)と“減った”(24.0%)が同程度。

※“増えた”は、「+1～9万円」から「+50万円以上」の合計を表します。“減った”は、「-1～9万円」から「-50万円以上」の合計を表します。

図 2. この夏のボーナスと、昨夏のボーナスとの増減比較



20 代 <n=125>	-	-	-	1.6	5.6	27.2	37.6	14.4	4.0	1.6	0.8	-	-	7.2
30 代 <n=125>	-	-	0.8	2.4	6.4	22.4	40.8	12.0	6.4	1.6	-	-	-	7.2
40 代 <n=125>	2.4	-	-	1.6	1.6	7.2	58.4	12.0	9.6	3.2	0.8	-	0.8	2.4
50 代 <n=125>	0.8	-	-	2.4	6.4	8.8	49.6	9.6	7.2	7.2	0.8	0.8	3.2	3.2
役職なし <n=215>	-	-	-	0.9	2.3	19.5	50.7	10.7	6.5	1.4	-	-	-	7.9
係長・主任クラス <n=132>	-	-	0.8	2.3	6.8	18.9	40.9	16.7	4.5	2.3	0.8	0.8	0.8	4.5
課長クラス以上 <n=153>	2.6	-	-	3.3	7.2	9.8	45.8	9.8	9.2	7.2	1.3	-	2.6	1.3

次に、この夏のボーナスに対する増減をみると、「昨年と同額」がほぼ半数(46.6%)を占めていますが、“増えた”(24.4%)と“減った”(24.0%)が同程度となっています。

- ・妻の年代別にみると、《20 代》～《30 代》では“減った”より“増えた”人の方が多くなっていますが、《40 代》～《50 代》では、逆に“減った”人が多くなっています。
- ・夫の役職別にみると、役職が上がるにつれて“減った”人の割合が高く、《課長クラス以上》では“増えた”(22.9%)より“減った”(30.1%)人の方が多くなっています。

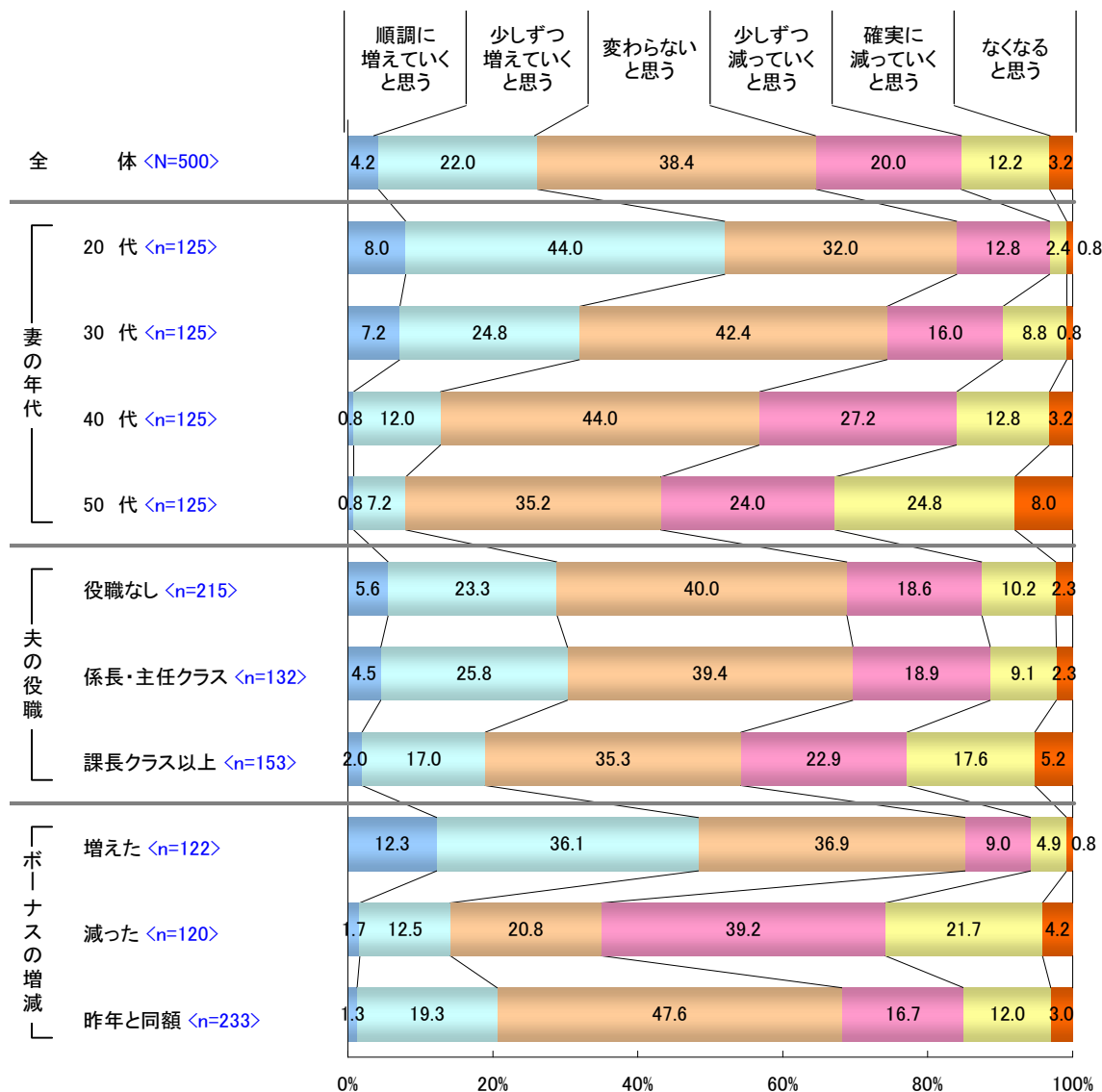
■昨夏の調査結果との比較■

“増えた”(33.7%→24.4%)が 9 ポイントほど大きく減っていますが、“減った”(25.9%→24.0%)も 2 ポイント近く少なくなっており、“昨年と同額”(36.9%→46.6%)が 10 ポイント近く増えています。

3. ボーナスの今後の見通し

“変わらないと思う”(38.4%)が最も多いものの、“減っていく+なくなると思う”(35.4%)が“増えていくと思う”(26.2%)を9.2ポイント上回る。

図 3. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いてみたところ、「変わらないと思う」(38.4%)が最も多い結果となっていますが、「少しずつ増えていくと思う」(22.0%)と「順調に増えていくと思う」(4.2%)を合わせた“増えていくと思う”(26.2%)人より、“減っていく+なくなると思う”(35.4%)人の方が多くなっています。

・妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う”割合は高く、特に《20代》では5割強(52.0%)と半数を超えています。一方、《50代》では“増えていく”は1割弱(8.0%)にとどまり、“減っていく+なくなると思う”(56.8%)が過半数を占めています。

・夫の役職別にみると、《役職なし》では“増えていくと思う”(28.9%)と“減っていく+なくなると思う”(31.1%)が3割前後、《係長・主任クラス》ではともに30.3%と大差はありませんが、《課長クラス以上》になると、“減っていく+なく

なと思う”(45.7%)が、“増えていくと思う”(19.0%)を大きく上回っています。

- ・前述した今夏のボーナスの増減別にみると、《増えた》人の半数近く(48.4%)は“増えていくと思う”と明るい見通しをしているのに対し、《減った》人では“減っていく＋なくなると思う”(65.1%)が過半数を占めています。《減った》人で“増えていくと思う”と明るい見通しを持っている人は1割強(14.2%)にとどまっています。また、《昨年と同額》という人は“減っていく＋なくなると思う”(31.7%)が“増えていくと思う”(20.6%)を 10 ポイント以上上回っています。

■昨夏の調査結果との比較■

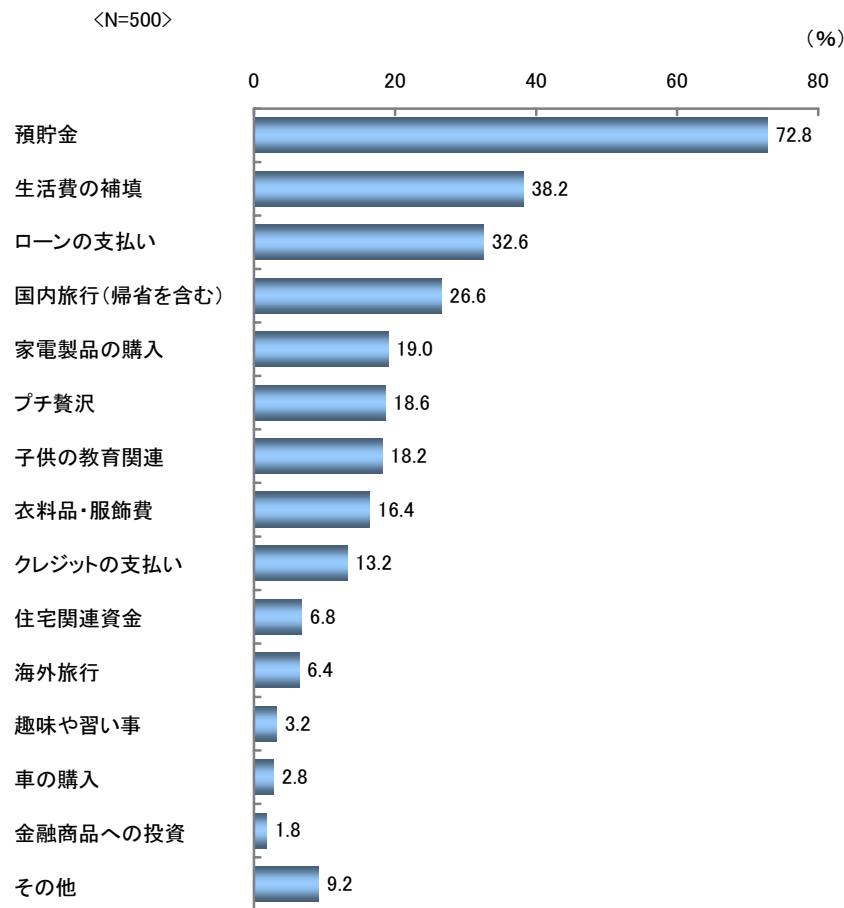
昨夏の調査結果と比べると、“増えていくと思う”(31.3%→26.2%)は減少、“減っていく＋なくなると思う”(31.5%→35.4%)は少し増加しており、今後のボーナスについては悲観的な見方がやや増加しているようです。

4. 今回のボーナスの主な使い道

「預貯金」(72.8%)がトップ。以下「生活費の補填」(38.2%)、「ローンの支払い」(32.6%)が続く。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳は、「預貯金」がほぼ4割(39.6%)を占める。

図 4. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの使い道についてみると、「預貯金」(72.8%)が7割強と群を抜いており、次いで「生活費の補填」(38.2%)、「ローンの支払い」(32.6%)が続き、“将来への備え”や“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。

以下「国内旅行(帰省を含む)」(26.6%)、「家電製品の購入」(19.0%)、「プチ贅沢」(18.6%)、「子供の教育関連」(18.2%)、「衣料品・服飾費」(16.4%)などとなっています。

表 1. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

(%)

		サ ン プ ル 数	預 貯 金	生 活 費 の 補 填	ロ ー ン の 支 払 い	国 内 旅 行 （ 帰 省 を 含 む ）	家 電 製 品 の 購 入	ブ チ 贅 沢	子 供 の 教 育 関 連	衣 料 品 ・ 服 飾 費	ク レ ジ ット の 支 払 い	住 宅 関 連 資 金	海 外 旅 行	趣 味 や 習 い 事	車 の 購 入	金 融 商 品 へ の 投 資	そ の 他
全 体		500	72.8	38.2	32.6	26.6	19.0	18.6	18.2	16.4	13.2	6.8	6.4	3.2	2.8	1.8	9.2
妻 の 年 代	20 代	125	76.8	28.8	21.6	28.0	16.8	22.4	9.6	14.4	10.4	9.6	6.4	3.2	3.2	1.6	10.4
	30 代	125	83.2	40.0	32.0	25.6	18.4	20.8	10.4	16.0	8.0	4.8	8.0	3.2	3.2	－	8.8
	40 代	125	63.2	35.2	42.4	28.8	13.6	14.4	27.2	16.8	18.4	3.2	5.6	4.0	4.0	－	9.6
	50 代	125	68.0	48.8	34.4	24.0	27.2	16.8	25.6	18.4	16.0	9.6	5.6	2.4	0.8	5.6	8.0
子 供	い る	274	71.5	44.9	35.4	25.2	16.1	14.6	29.9	16.8	13.5	5.5	4.7	1.1	3.6	1.1	9.9
	い ない	226	74.3	30.1	29.2	28.3	22.6	23.5	4.0	15.9	12.8	8.4	8.4	5.8	1.8	2.7	8.4
ロ ー ン	あ る	229	66.8	40.6	59.0	25.8	17.5	15.7	20.1	16.2	18.3	7.0	3.5	2.2	3.1	1.7	9.6
	な い	271	77.9	36.2	10.3	27.3	20.3	21.0	16.6	16.6	8.9	6.6	8.9	4.1	2.6	1.8	8.9
世 帯 年 収	600万円未満	212	71.2	40.6	27.4	25.0	15.6	20.3	11.8	16.0	9.9	5.7	3.3	2.4	2.8	0.9	10.4
	600～800万円未満	113	70.8	34.5	36.3	31.0	22.1	19.5	20.4	17.7	15.9	9.7	3.5	4.4	3.5	0.9	5.3
	800～1000万円未満	84	78.6	41.7	40.5	22.6	19.0	15.5	25.0	11.9	10.7	7.1	9.5	2.4	2.4	1.2	8.3
	1000万円以上	91	73.6	34.1	33.0	28.6	23.1	16.5	24.2	19.8	19.8	5.5	14.3	4.4	2.2	5.5	12.1
受 給 額	50万円未満	240	68.3	37.5	27.9	23.8	16.7	17.9	12.5	14.6	10.0	6.3	5.0	1.7	2.1	0.8	7.5
	50～100万円未満	179	76.5	42.5	40.8	29.6	21.8	21.2	18.4	19.0	16.8	8.9	3.9	3.9	3.9	1.1	10.6
	100万円以上	81	77.8	30.9	28.4	28.4	19.8	14.8	34.6	16.0	14.8	3.7	16.0	6.2	2.5	6.2	11.1

・妻の年代別にみると、「預貯金」は《20 代》《30 代》の若い年代の方が《40 代》《50 代》に比べ高くなる傾向がみられます。特に、《30 代》では8割強(83.2%)と高くなっています。また、《40 代》で「ローンの支払い」(42.4%)、「子供の教育関連」(27.2%)が他の年代よりも高くなっているのが特徴的です。

・独立している子供(扶養中の子供)の有無別にみると、扶養中の子供が《いる》人では「子供の教育関連」、「ローンの支払い」、「生活費の補填」が《いない》人より高くなっています。

・住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ない》人は「預貯金」(77.9%)が高くなっています。《ある》人では「ローンの支払い」(59.0%)に加え、「生活費の補填」(40.6%)が高くなっており、住宅ローンが家計のゆとりに大きく影響しているようです。

・世帯年収別でみると、世帯年収に関係なく「預貯金」が7割台で最も多くなっています。なお、《1000 万円以上》の層では「海外旅行」(14.3%)が高くなっています。

・ボーナス受給額別にみると、いずれも「預貯金」が最も多くなっていますが、受給額が多い人ほど「預貯金」「子供の教育関連」「金融商品への投資」が多い傾向にあります。受給額《100 万円以上》の層では「海外旅行」(16.0%)が他の層と比べて突出して高くなっています。

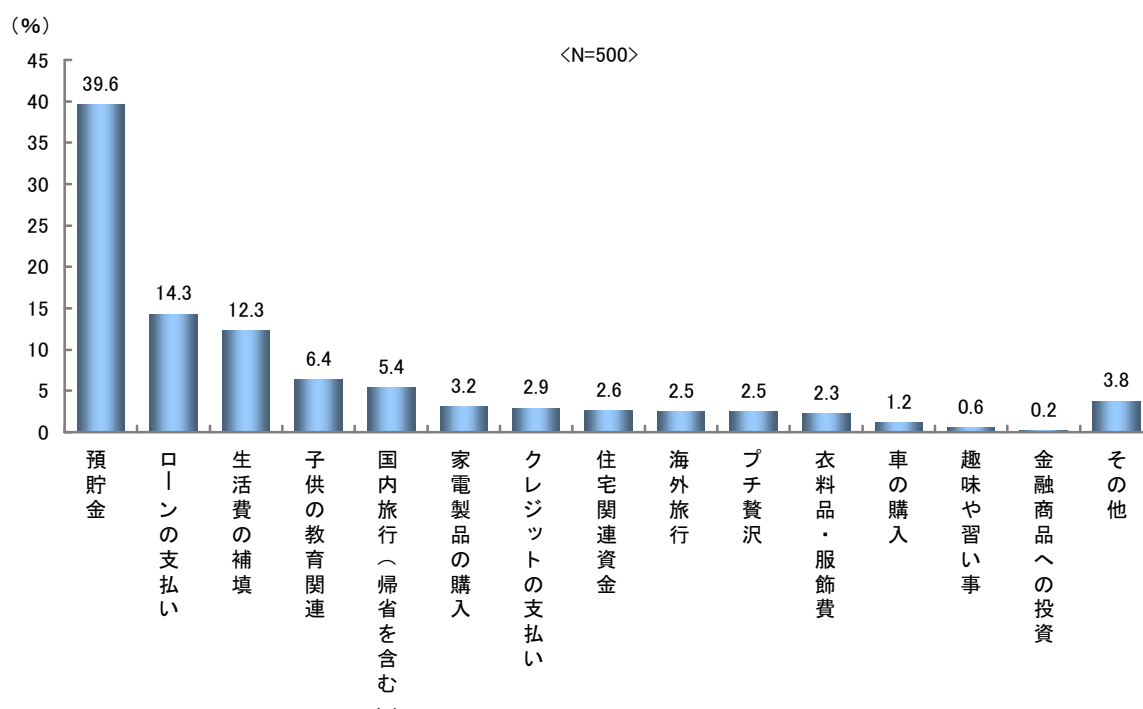
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、昨年も「預貯金」が群を抜いてトップ。その割合も68.7%→72.8%と、一層増えてい

ます。以下「生活費の補填」、「ローンの支払い」が続き、ベスト3は、昨夏も今夏も同様の項目があげられています。

なお、「生活費の補填」(39.2%→38.2%)、「ローンの支払い」(33.0%→32.6%)、「クレジットの支払い」(13.6%→13.2%)は昨夏と同程度の割合を示しています。一方「国内旅行」(29.7%→26.6%)、「海外旅行」(7.5%→6.4%)、「車の購入」(2.9%→2.8%)、「家電製品の購入」(21.3%→19.0%)、「プチ贅沢」(23.9%→18.6%)など、割合がやや減っている項目が多く、“消費の低迷”を裏付ける結果となっています。

図 5. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値）

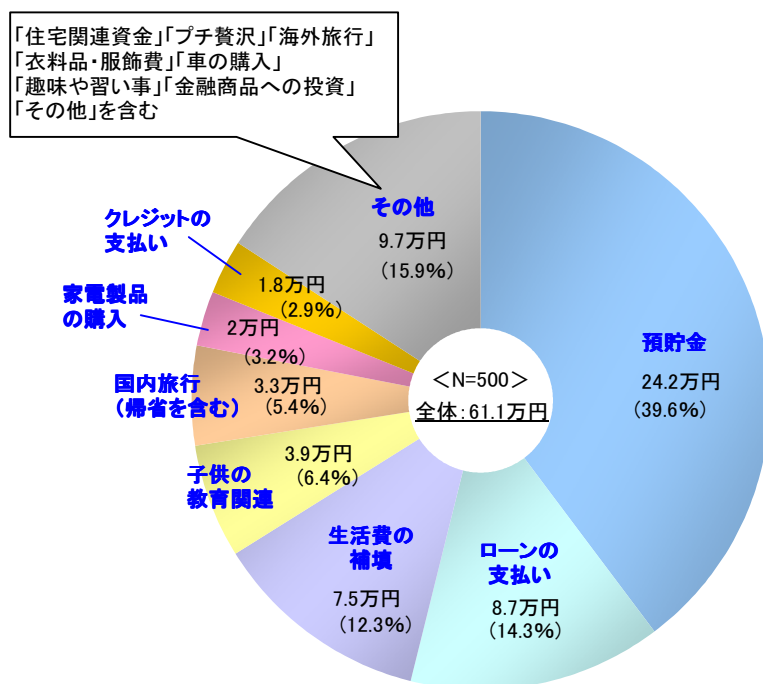


次に、夏のボーナス全額を「10 割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を 100%に換算したもの）。

割合の平均値(100%換算)をみると「預貯金」(39.6%)が断然高く、ボーナス総額の4割近くが預貯金に回されている計算になります。以下「ローンの支払い」(14.3%)、「生活費の補填」(12.3%)が続き、このトップ3でほぼ3分の2(66.2%)を占めています。

「預貯金」は“使い道”と“使う割合”ともに1位ですが、“使い道”2位の「生活費の補填」、3位の「ローンの支払い」は“使う割合”では順位が逆転しています。続いて、“使い道”7位の「子供の教育関連」(6.4%)が4位となっており、“使い道”と実際に“使う割合”は異なる結果となっています。

図 6. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（この夏のボーナス平均手取額 61.1 万円を総額とし、金額に換算）



参考までに、今回の夏のボーナスの平均手取額「61.1 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかをみると、トップの「預貯金」は「24.2 万円」となりました。

※例えば「国内旅行 (帰省を含む)」は「3.3 万円」と、実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でなると、一家庭当たり「3.3 万円」に当たることを示しています。

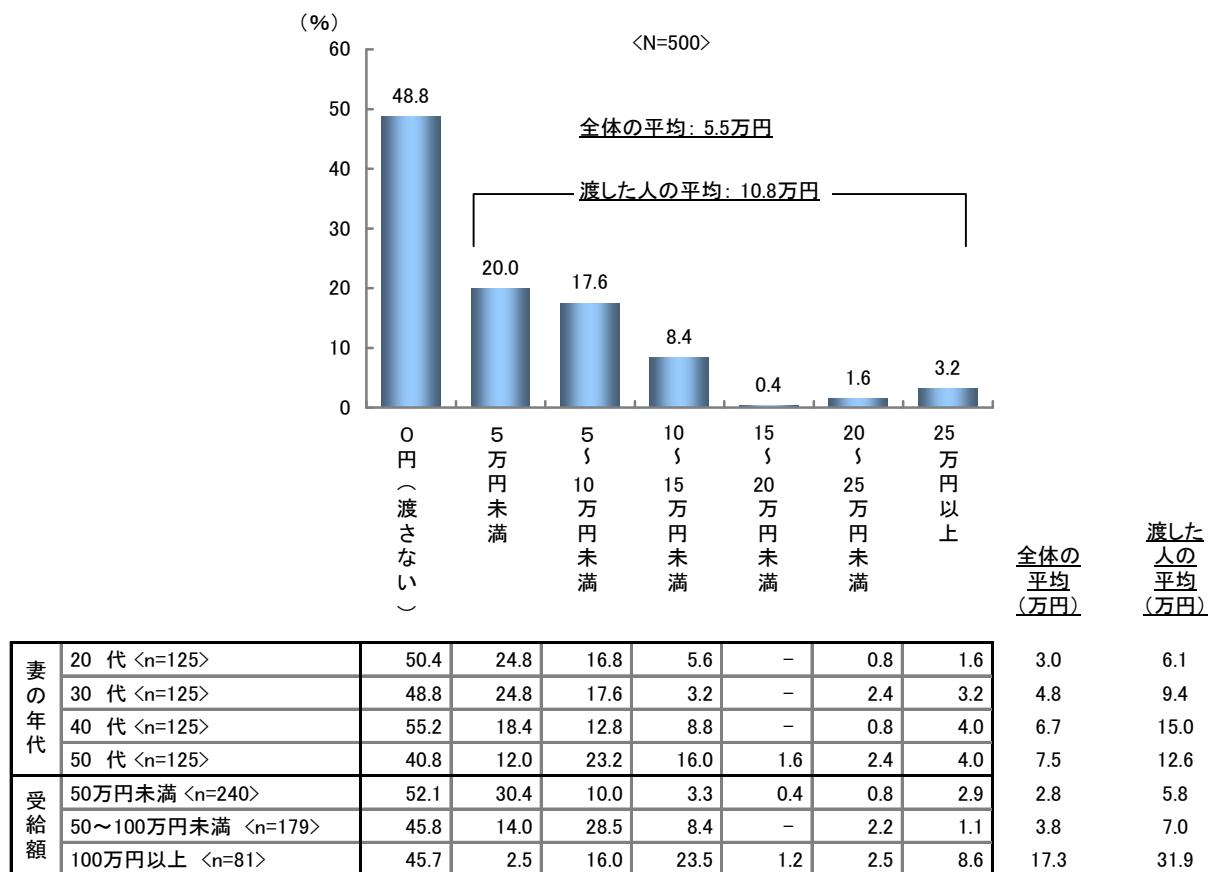
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

“渡す”（51.2%）と「0円（渡さない）」（48.8%）に二分。

“渡した（渡そうと思っている）”人では、「5万円未満」（20.0%）が最も多く、“渡した（渡そうと思っている）”人の平均金額は「10.8 万円」。

◆渡さない理由は、「必要な時にはその都度渡しているの」（41.8%）、「毎月お小遣いを渡しているの」（28.3%）、「もらったボーナスが少ないの」（20.5%）がトップ3。

図 7. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞いてみました。

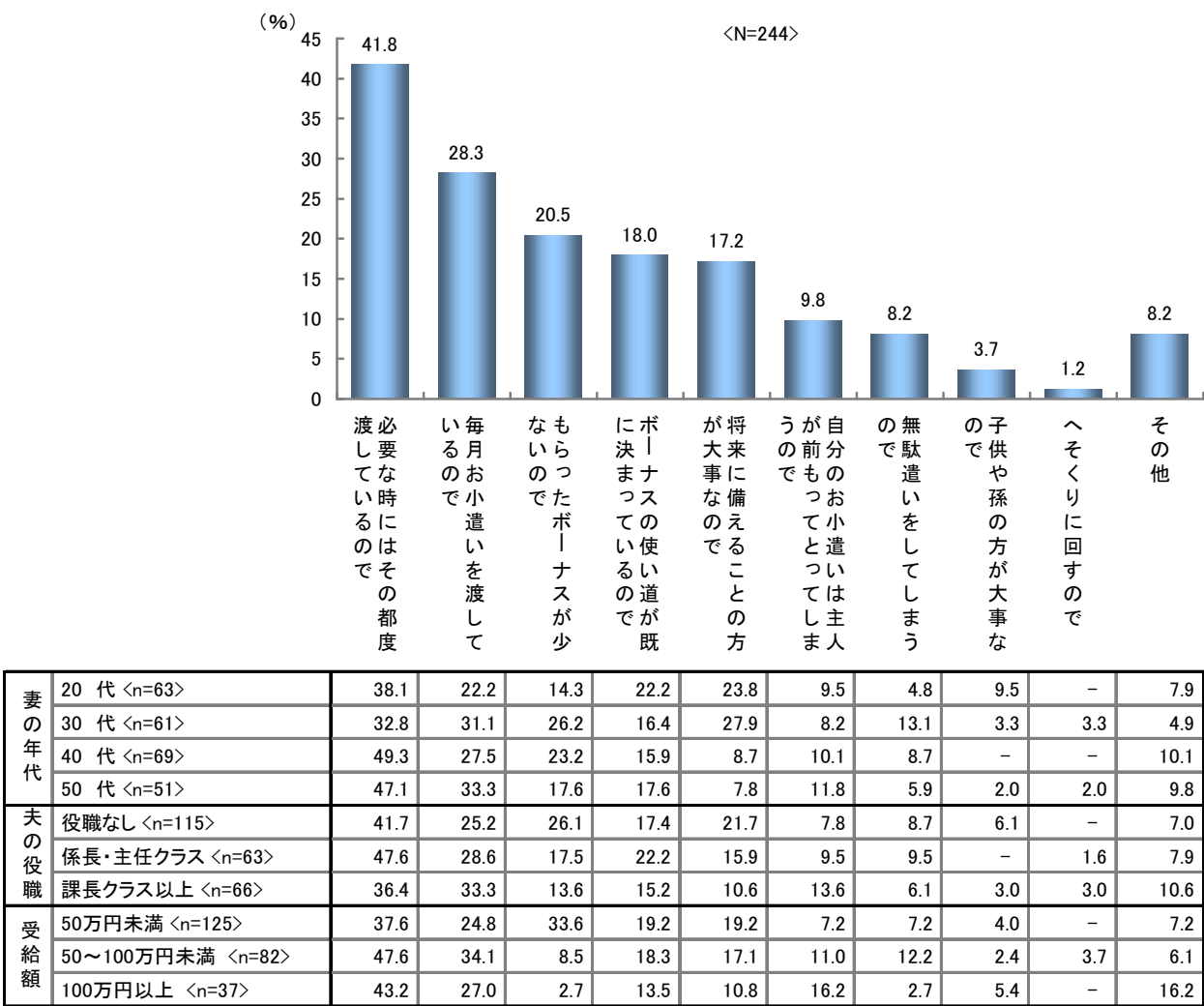
「5 万円未満」（20.0%）、「5～10 万円未満」（17.6%）、「10～15 万円未満」（8.4%）など、夫に小遣いとして“渡した、あるいは渡そうと思っている”人が5割強（51.2%）を占めています。一方、「0円（渡さない）」という人も半数近く（48.8%）みられ、ほぼ二分された結果です。平均は、全体でみると「5.5 万円」、「渡した（渡そうと思う）”人に限ってみると「10.8 万円」です。

- ・妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、《20 代》（6.1 万円）、《30 代》（9.4 万円）は“10 万円以下”で、《40 代》（15.0 万円）がピーク、《50 代》（12.6 万円）となっています。ただし、“渡した（渡そうと思う）”割合は、《40 代》（44.8%）が最も低率です。
- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が多い人ほど“渡した（渡そうと思う）”割合が高く、その渡した平均金額も多くなっています。受給額《50 万円未満》では、“渡した（渡そうと思う）”割合が 47.9%、平均が「5.8 万円」であるのに対し、《100 万円以上》では、割合が 54.3%、平均が「31.9 万円」とかなりの差がみられます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、昨年も“渡した(渡そうと思う)”(52.0%)と「0円(渡さない)」(48.0%)にほぼ二分されており、今夏も意識の変化はみられません。渡した額の平均も 10.6 万円→10.8 万円と、横ばい傾向です。

図 8. 「渡さない」理由（複数回答）



では、なぜボーナスの中から夫に小遣いを渡さないのでしょうか。

その理由をみると、「必要な時にはその都度渡しているの」(41.8%)が最も多く、以下「毎月お小遣いを渡しているの」(28.3%)、「もらったボーナスが少ないので」(20.5%)、「ボーナスの使い道が既に決まっているの」(18.0%)、「将来に備えることの方が大事な」(17.2%)が続いています。

中には、「子供や孫の方が大事な」(3.7%)、「へそくりに回すので」(1.2%)という人も少数派ながらいいます。

- ・妻の年代別にみると、若い《20 代》《30 代》で「将来に備えることの方が大事な」が2割台（順に 23.8%、27.9%）と、《40 代》《50 代》（順に 8.7%、7.8%）に比べて高くなっているのが特徴的です。
- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が少ない人ほど、当然の結果ですが「もらったボーナスが少ないので」の割合が高く、《100 万円以上》ではわずか 2.7%であるのに対し、《50 万円未満》では 33.6%と大差が生じています。また、「将来に備えることの方が大事な」という割合も受給額が少ない人ほど高くなっています。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

＜芸能界＞では「AKB48」(29 件)、＜スポーツ界＞では「澤穂希」(23 件)、「香川真司」「なでしこジャパン」(各 22 件)が多い。＜その他の分野＞では、「自分」(9 件)、「橋下徹」(7 件)など。

◆渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「イチロー」(2,145 万円)、「橋下徹」(1,693 万円)、「本田圭祐」(1,648 万円)がトップ3。

2012 年前半に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（芸能人）

芸能界			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数		
1	AKB48	29	461	10,000
2	嵐	17	612	5,000
3	スギちゃん	14	90	500
4	芦田愛菜	5	54	100
	大島優子 (AKB48)	5	280	1,000
6	前田敦子 (AKB48)	4	353	1,000

＜芸能界＞では「AKB48」(29 件)、「嵐」(17 件)、「スギちゃん」(14 件)がトップ3となっています。また、「AKB48」は「大島優子」(5 件)や「前田敦子」(4 件)などメンバー個人も上位にあげられており、今や“国民的アイドル”として、圧倒的な支持を得ているようです。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、トップの「AKB48」が 461 万円、2 位の「嵐」が 612 万円、「スギちゃん」が 90 万円となっています。

「AKB48」メンバー個人の「大島優子」が 280 万円、「前田敦子」が 353 万円となっています。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界				
順位		件数	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
1	澤穂希	23	274	1,000
2	香川真司	22	882	5,000
	なでしこジャパン	22	880	10,000
4	ダルビッシュ有	16	1,025	10,000
5	本田圭佑	14	1,648	10,000
6	北島康介	11	441	1,000
7	浅田真央	10	81	100
8	イチロー	9	2,145	10,000
9	女子バレー日本代表	6	97	200
	松井秀喜	6	609	2,000

＜スポーツ界＞では「澤穂希」(23 件)、「香川真司」「なでしこジャパン」(各 22 件)がトップ3、以下「ダルビッシュ有」(16 件)、「本田圭佑」(14 件)、「北島康介」(11 件)、「浅田真央」(10 件)が続いています。女子サッカーの“なでしこジャパン”の人気は依然根強いようです。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、1 位の「澤穂希」が 274 万円、2 位の「香川真司」が 882 万円、「なでしこジャパン」が 880 万円となっています。最も平均金額が高いのは、8 位の「イチロー」(2,145 万円)、以下「本田圭佑」(1,648 万円)、「ダルビッシュ有」(1,025 万円)が続いています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他				
順位		件数	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
1	自分	9	134	500
2	橋下徹	7	1,693	9,999
3	夫	3	52	100
	野田佳彦	3	383	1,000
	東日本大震災の被災者	3	40	100

＜その他の分野＞では、トップは「自分」(9件)があげられ、以下「橋下徹」(7件)、「夫」「野田佳彦」「東日本大震災の被災者」(各3件)が続いています。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、1位の「自分」には134万円、2位の「橋下徹」が1,693万円、そのほか「野田佳彦」が383万円、「東日本大震災の被災者」が40万円となっています。また、「夫」は52万円で、「自分」(134万円)の半分以下という結果です。

表 5. <参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ10>

順位		得票数
1	AKB48	29
2	澤穂希	23
3	なでしこジャパン	22
	香川真司	22
5	嵐	17
6	ダルビッシュ有	16
7	スギちゃん	14
	本田圭佑	14
9	北島康介	11
10	浅田真央	10

順位		平均金額 (万円)
1	イチロー	2,145
2	橋下徹	1,693
3	本田圭佑	1,648
4	ダルビッシュ有	1,025
5	香川真司	882
6	なでしこジャパン	880
7	嵐	612
8	松井秀喜	609
9	AKB48	461
10	北島康介	441

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の第1位と比べると、

【芸能界】「AKB48」(41 件) → 「AKB48」(29 件)

【スポーツ界】「石川遼」(73 件) → 「澤穂希」(23 件)

【その他】「枝野幸男」(12 件) → 「自分」(9 件)

となっており、【芸能界】で「AKB48」が連続して1位となっています。

7. これまでの“夏のオリンピック”を振り返って最大の功労金を払いたい選手・チーム

アテネ(2004年)、北京(2008年)で100m、200m平泳ぎで連続金メダルをとった「北島康介」(124件)が、今夏のロンドンオリンピックの応援も込めてか、断然トップ。2位はシドニー(2000年)の女子マラソン金メダルの「高橋尚子」(37件)。

表 6. 功労金を払いたい選手・チーム

順位		件数	成績
1	北島康介	124	2004/アテネ(100m平:金、200m平:金、リレー:銅) 2008/北京(100m平:金、200m平:金、リレー:銅)
2	高橋尚子	37	2000/シドニー(金)
3	女子ソフトボールチーム／上野由岐子	29	2000/シドニー(銀)、2004/アテネ(銅)、2008/北京(金)
	なでしこジャパン／澤穂希	29	2008/北京(4位入賞)
5	女子バレーボールチーム	13	1964/東京(金)、1968/メキシコシティ(銀)、1972/ミュンヘン(銀) 1976/モントリオール(金)、1984/ロサンゼルス(銅)
6	山下泰裕	12	1984/ロサンゼルス(金)
7	有森裕子	7	1992/バルセロナ(銀)、1996/アトランタ(銅)
	内村航平	7	2008/北京(個人総合:銀、団体:銀)
	谷亮子	7	1992/バルセロナ(銀)、1996/アトランタ(銀)、2000/シドニー(金) 2004/アテネ(金)、2008/北京(銅)
10	岩崎恭子	6	1992/バルセロナ(200m平:金)
	野村忠宏	6	1996/アトランタ(金)、2000/シドニー(金)、2004/アテネ(金)
12	吉田沙保里	5	2004/アテネ(金)、2008/北京(金)
13	野口みずき	4	2004/アテネ(金)

今夏、ロンドンオリンピックが開催されますが、これまでの“夏のオリンピック”を振り返って、ボーナスとも言える最大の功労金を払いたいと思う選手やチームを具体的にあげてもらいました。

その結果、アテネ(2004年)、北京(2008年)で100m、200m平泳ぎで連続金メダルをとった「北島康介」(124件)が、今回のロンドンオリンピックでの3連覇の応援を込めているのでしょうか、断然トップとなっています。2位はシドニー(2000年)の女子マラソン金メダルの「高橋尚子」(37件)、3位に北京(2008年)で金メダルの「女子ソフトボールチーム」と、やはり北京(2008年)で4位入賞の「なでしこジャパン」が同数(29件)でランクされています。

8. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると

「ボーナスは 右から左に 消えてゆく」、「明細書 増えているのは 年度だけ」、「ボーナスを もらえる幸せ かみしめて」、「ボーナスに 期待するのは あきらめた」、「ボーナスが 出た日は夫 大事にし」など、主婦の思いはさまざま。

表 7. 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数	参考	
			昨夏の 順位	昨夏の 件数
1	家計のやりくりの大変さ	86	1	155
2	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	38	4	54
3	ボーナスが出ただけマシ	37	2	73
4	ボーナスに期待していない	26	—	—
5	世相を反映	20	5	49
6	ボーナスが出たことへの感謝	19	3	55
7	使い道は旅行や食事	18	6	38
8	今後のボーナスが不安	15	9	16
9	使い道は貯蓄が最優先	13	7	31
10	夫への感謝の気持ち	7	7	31

夏のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」(86 件)を詠んだもの、「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」(38 件)や「ボーナスが出ただけマシ」(37 件)と思う気持ちを表現する人が多くなっています。

なお、昨夏の川柳と比べると、「家計のやりくりの大変さ」を詠んだものが最も多い点は同じですが、今年は「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」が4位→2位になっています。

実際に詠まれた川柳の代表例は以下の通りです。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・ボーナスは 右から左に 消えてゆく
- ・ボーナス日 やっと来たのに すぐ仕分け
- ・ボーナスは もらう前から 使用済み
- ・ボーナスが ローンに消えゆく さみしさよ

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・ボーナスが 出たとは言えない 金額に
- ・ボーナスで ちょっとぜいたく 今昔
- ・ボーナスと 寸志の区別が わからない
- ・明細書 増えているのは 年度だけ

【ボーナスが出ただけマシ】

- ・このご時世 もらえるだけで ありがたい
- ・ボーナスが あるだけましと 言い聞かす

【ボーナスに期待していない】

- ・ボーナスに 期待するのは あきらめた
- ・無いものと 思えば額は 気にならず

【世相を反映】

- ・ボーナスと 景気の上昇 期待薄
- ・ボーナスも 野田政権も 下降気味
- ・金額も 電気と一緒に 節電です

【ボーナスが出たことへの感謝】

- ・ボーナスが 家族の絆を 深めます
- ・ボーナスを もらえる幸せ かみしめて
- ・ボーナス日 旦那のお土産 イクラかな

【使い道は旅行や食事】

- ・ボーナスで テンション上がり 無駄遣い
- ・ボーナスで 家族旅行に 行きたいな
- ・ボーナス日 今年も家族で 焼き肉だ

【今後のボーナスが不安】

- ・いつまでも あると思うな ボーナス日
- ・この次は 出るかどうかと おびえがち

【使い道は貯蓄が最優先】

- ・ボーナスは 老後の資金に 貯蓄せよ
- ・ボーナスは そのままずっと 銀行に
- ・出た途端 預金口座へ 移すだけ

【夫への感謝の気持ち】

- ・ボーナスが 出た日は夫 大事にし
- ・旦那様 いつもお仕事 ありがとう

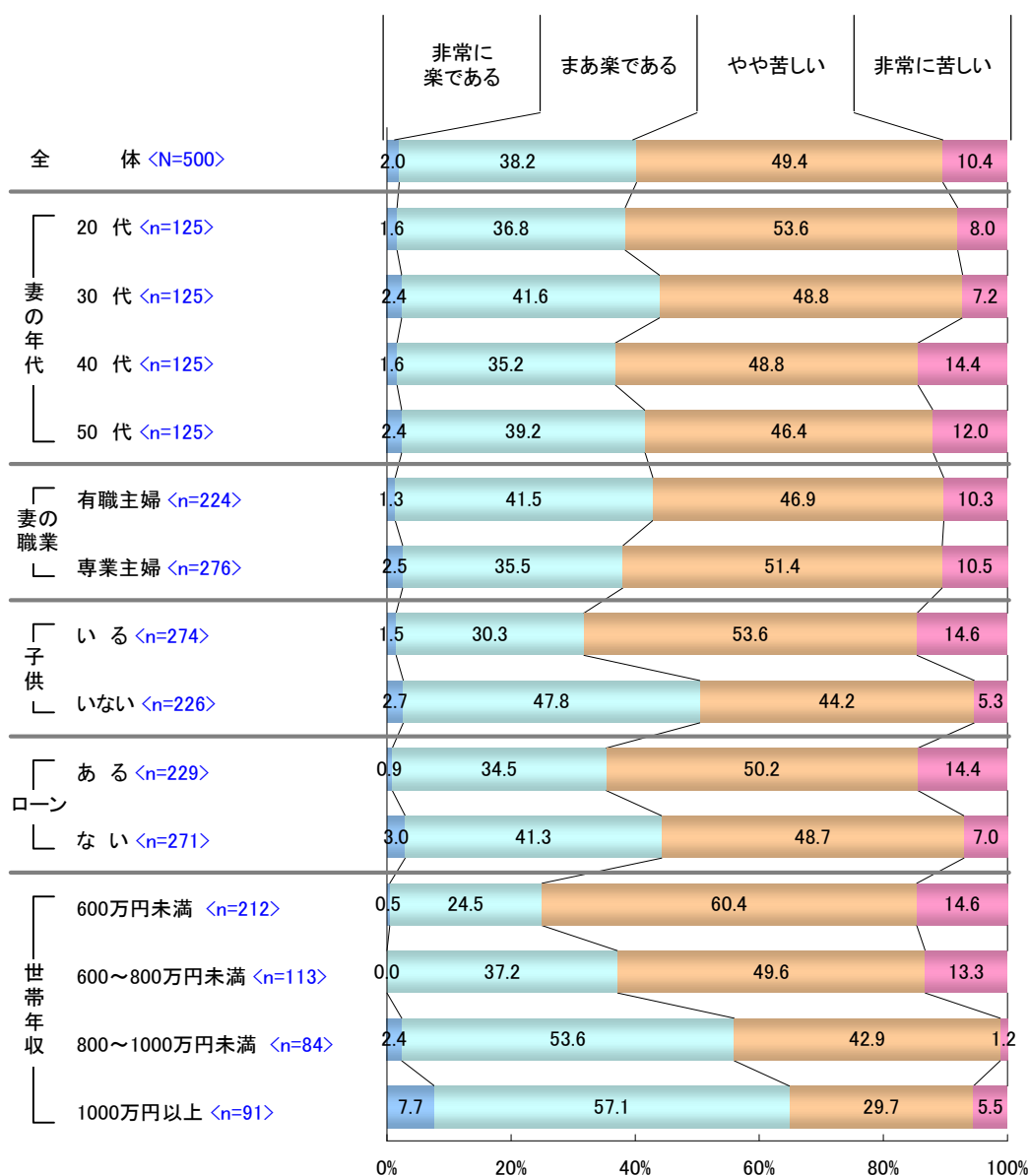
Ⅱ わが家の家計と金融資産

1. 家計についての現状認識

5人に3人が“苦しい”(59.8%)と、依然として厳しいという認識が強い。“楽である”は4割(40.2%)。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 9. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か苦しいかを聞いてみたところ、「非常に楽である」(2.0%)、「まあ楽である」(38.2%)を合わせた“楽である”という人は4割(40.2%)にとどまり、「非常に苦しい」(10.4%)、「やや苦しい」(49.4%)といった“苦しい”(59.8%)という人が過半数を占めています。依然として家計は苦しい状況が続いているようです。

- ・妻の年代別にみると、いずれの層でも“苦しい”が“楽である”を上回っています。“苦しい”という割合は、《40代》(63.2%)、《20代》(61.6%)の割合が比較的高くなっています。
- ・妻の職業別にみると、“苦しい”の割合は《専業主婦》(61.9%)の方が《有職主婦》(57.2%)より高くなっています。
- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、“苦しい”の割合は《いる》人では7割弱(68.2%)を占めており、《いない》(49.5%)よりも20ポイント近く高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“苦しい”という認識はローンが《ある》(64.6%)という方が、《ない》(55.7%)を10ポイント近く上回っています。
- ・世帯年収別にみると、当然ながら年収が高くなるほど“楽である”の割合が高く、《600万円未満》(25.0%)と《1000万円以上》(64.8%)とでは家計に対する認識に大きな差が生じています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“楽である”(42.9%→40.2%)がやや減少、“苦しい”(57.1%→59.8%)がやや増加と、家計がやや“苦しく”なっている状況がうかがえます。

2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

第一に「子供の教育費」(156 件)、以下「旅行・レジャー費」(123 件)、「食費」(75 件)、「外食費」(39 件)、「娯楽・教養費」(26 件)が続く。

表 8. これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

順位		件数
1	子供の教育費	156
2	旅行・レジャー費	123
3	食費	75
4	外食費	39
5	娯楽・教養費(新聞、書籍・CDなど)	26
6	服飾・衣料費	20
7	趣味にかかる費用	18
8	美容費(エステ、化粧品など)	13
9	ペットにかかる費用	11
10	医療費	8
	貯金	8
12	交際費	6
	スポーツにかかる費用	6
14	車・バイクの維持費	5
	子供の習い事にかかる費用	5
	通信費(電話、インターネットなど)	5

前述のように家計の現状を“苦しい”とみている主婦が過半数を占めていましたが、ここでは家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出を具体的にあげてもらいました。

最も多かったのは「子供の教育費」(156 件)で、以下「旅行・レジャー費」(123 件)、「食費」(75 件)、「外食費」(39 件)、「娯楽・教養費」(26 件)、「服飾・衣料費」(20 件)が続いています。

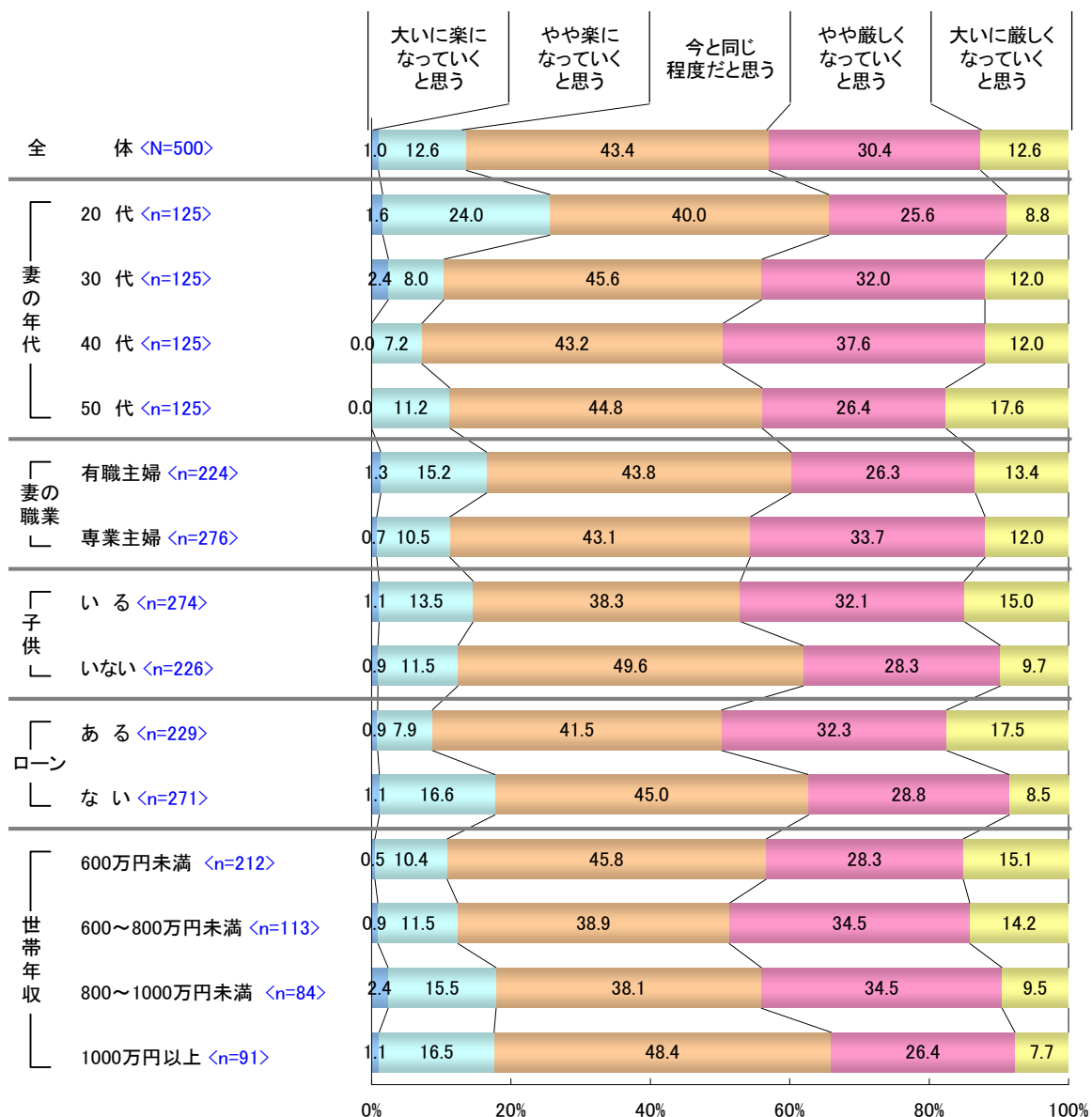
家計が“苦しい”からといって、「子供の教育費」だけは削りたくない・お金をかけたいと考える人が多いようです。しかし、「旅行・レジャー費」といった“楽しみ”も忘れないようです。

3. 今後の家計の見通し

“厳しくなっていく”が4割強(43.0%)を占め、“楽になっっていく”(13.6%)は1割台にとどまる。

※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっっていくと思う」「大いに厳しくなっっていくと思う」の合計、“楽になっっていく”は、「やや楽になっっていくと思う」「大いに楽になっっていくと思う」の合計を表します。

図 10. 今後の家計の見通し



今後の家計の見通しを聞いたところ、“楽になっっていく(大いに+やや)”(13.6%)と前向きにとらえている人は1割台にとどまり、“厳しくなっっていく(大いに+やや)”(43.0%)と考えている人が4割強を占めています。また、「今と同じ程度だと思う」(43.4%)という見方は4割強と、今後の家計の見通しについては厳しい見方が多い結果となっています。

・妻の年代別にみると、《40代》で“厳しくなっっていく”(49.6%)の割合が、家計の現状認識同様、最も高くなっています。一方、《20代》(34.4%)では3割台と少なめです。

・妻の職業別にみると、“厳しくなっっていく”割合は《専業主婦》(45.7%)の方が《有職主婦》(39.7%)より高めです。

- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、《いる》の方が“厳しくなっていく”(47.1%)の割合が《いない》(38.0%)より高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“厳しくなっていく”との見方はローンが《ある》(49.8%)方が《ない》(37.3%)より多くなっています。
- ・世帯年収別にみると、“厳しくなっていく”の割合は《600～800 万円未満》(48.7%)が最も高く、《1000 万円以上》(34.1%)が最も低率です。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「今と同じ程度だと思う」(34.3%→43.4%)が10ポイント近く増えており、その分“楽になっていく”(16.3%→13.6%)や“厳しくなっていく”(49.4%→43.0%)がともにやや減少しています。

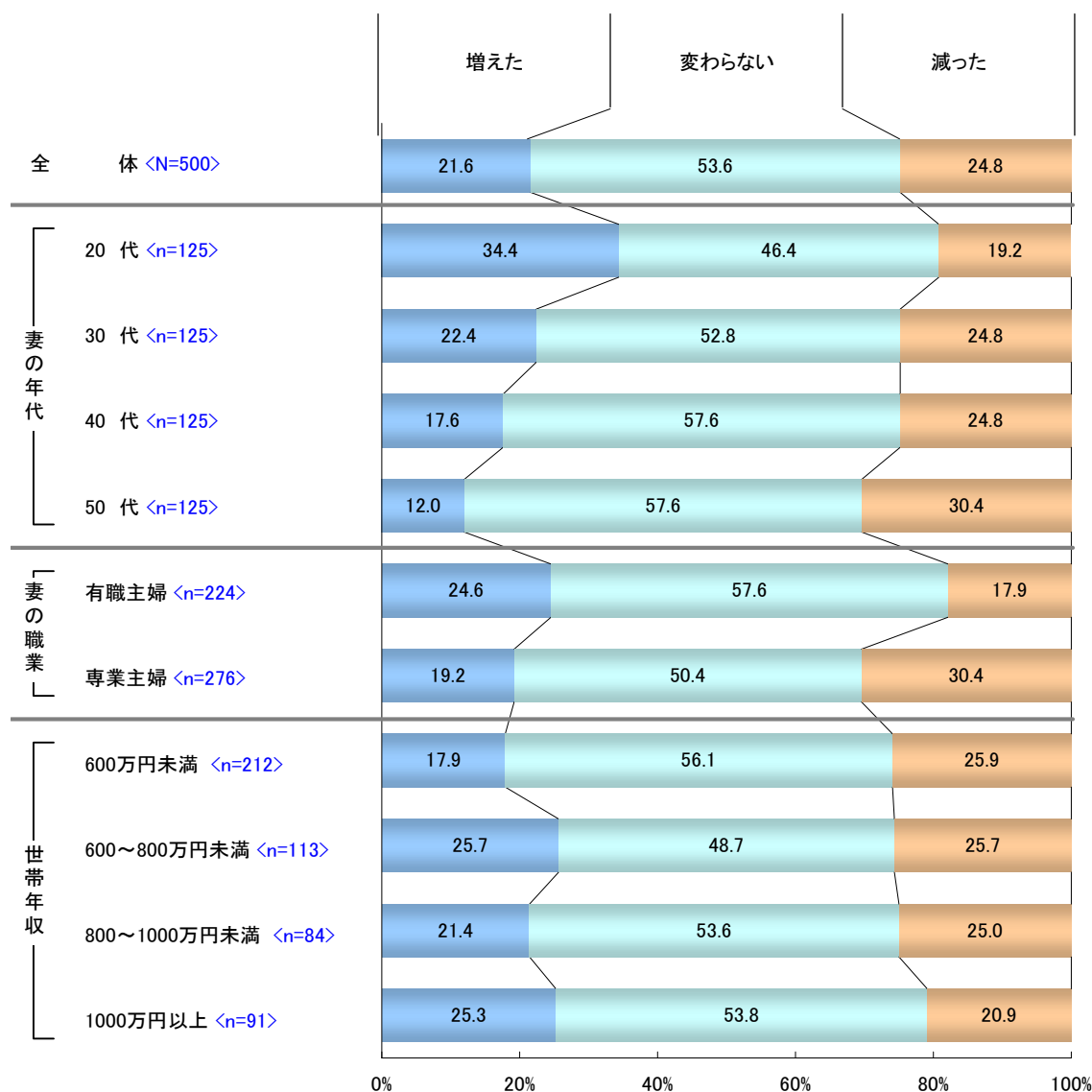
4. 世帯の金融資産の増減

「変わらない」(53.6%)が半数強を占めているが、「増えた」(21.6%)より「減った」(24.8%)方がやや多め。

◆「増えた」額の平均は「140.6 万円」、「減った」額は「171.9 万円」。

◆「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(48 件)、「節約したから」(13 件)など“妻の努力”によるところが大きい。「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(31 件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(20 件)、「車を購入したので」(13 件)など。

図 11. 世帯の金融資産の増減



預貯金や運用などを合わせた“金融資産の残高”は、この1年で増えたか、減ったか聞いてみたところ、「変わらない」が半数強(53.6%)を占めていますが、「増えた」(21.6%)より「減った」(24.8%)という人の方がやや多くなっています。

“金融資産の残高”の増減した金額の平均は、「増えた」人が「140.6 万円」、「減った」人が「171.9 万円」です。

・妻の年代別にみると、いずれも「変わらない」が最も多くなっていますが、年代が若い人ほど“増えた”という割合が

高く、《20代》では34.4%と、この年代だけが「減った」(19.2%)を上回っています。

・妻の職業別にみると、《有職主婦》は「減った」(17.9%)より「増えた」(24.6%)の方が高くなっていますが、《専業主婦》では順に30.4%、19.2%と、逆転しています。

表 9. “金融資産の残高”の増減の理由（自由回答：件）

増えた理由			減った理由			変わらない理由		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	こつこつ貯めたから・定期預金	48	1	子供の教育費に使ったから	31	1	収支が変わらないため	54
2	節約したから	13	2	家を購入したので・住宅ローンに充てたので	20	2	収入が増えても支出も多かったため	33
3	昇給などで収入が増えたから	8	3	車を購入したので	13	3	ローンや学費があり貯金できなかったから	25
	保険の支払い・退職金などの臨時収入があった	8	4	株安や円高で目減りした	12	4	生活に変化がなかったため	14
5	子供にかかる費用が減ったので	5	5	冠婚葬祭に使ったため	11	5	特に運用などをしていないから	13
	ボーナスが出たので	5	6	収入が減ったため	9	6	元々ないから	10
7	自分も働くようになったので	4	7	生活費に補填したから	7	7	あまり大きな支出がなかったため	9
			8	医療費が増えたため	5	8	節約して資産を減らさないようにしているため	8
						9	収入が減ったから	6

“金融資産の残高”が増減した理由を具体的に聞いてみました。

「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(48 件)が最も多く、次いで「節約したから」(13 件)があげられ、“妻の努力があったからこそ金融資産が増えた”と言えそうです。

「減った」理由をみると、「子供の教育費に使ったから」(31 件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(20 件)、「車を購入したので」(13 件)がトップ3です。

「変わらない」理由は、「収支が変わらないため」(54 件)が最も多く、以下「収入が増えても支出も多かったため」(33 件)、「ローンや学費があり貯金できなかったから」(25 件)、「生活に変化がなかったため」(14 件)などがあげられています。

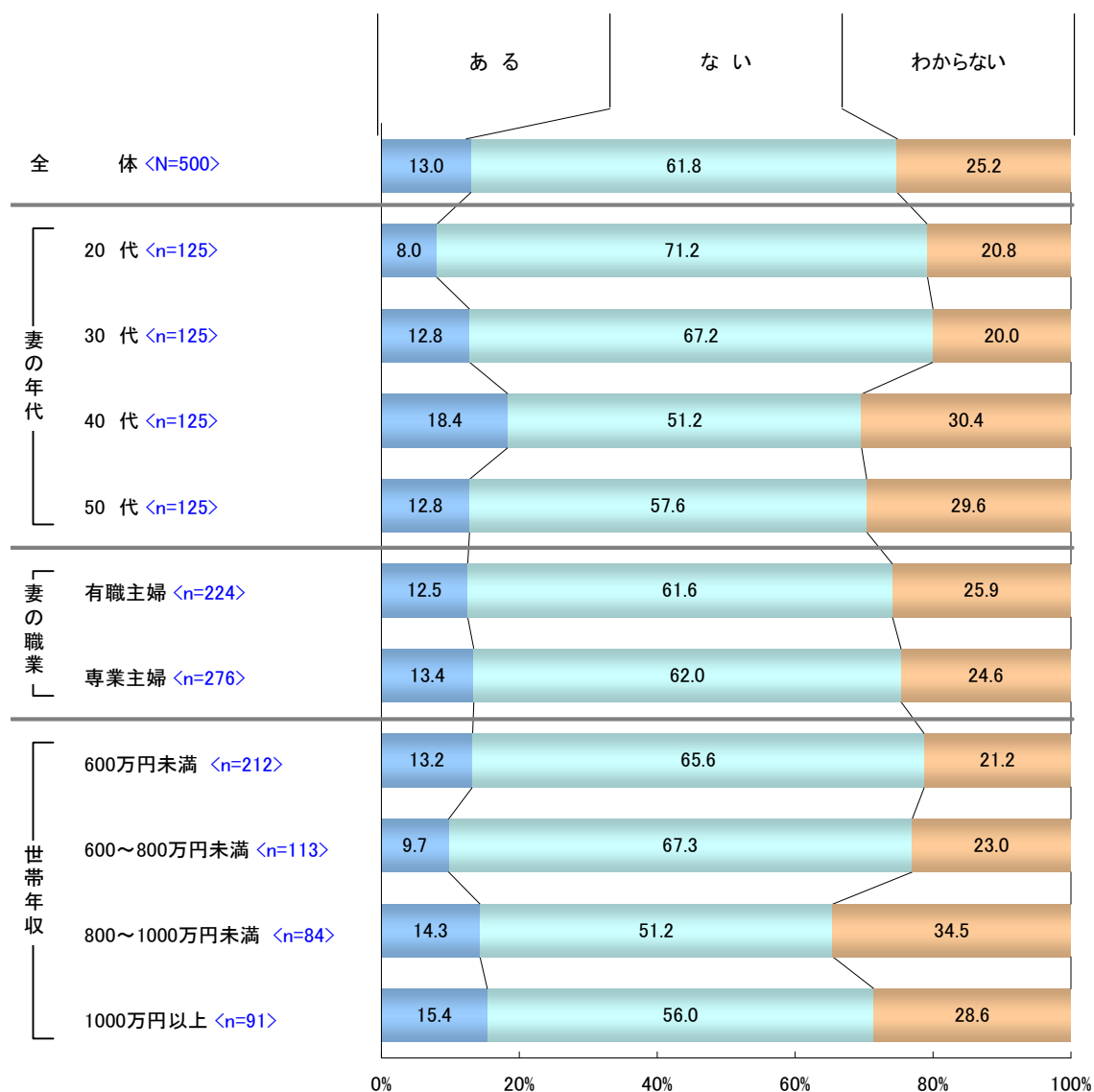
5. “休眠預金”があるか

1割強が、わが家には“休眠預金”が「ある」(13.0%)。

◆その口座数は、平均「2.6 口座」、休眠預金の平均金額は、「13 万 5200 円」。

◆“休眠預金”がある人の半数は「面倒なので、そのままにしておく」(50.8%)。

図 12. “休眠預金”の有無

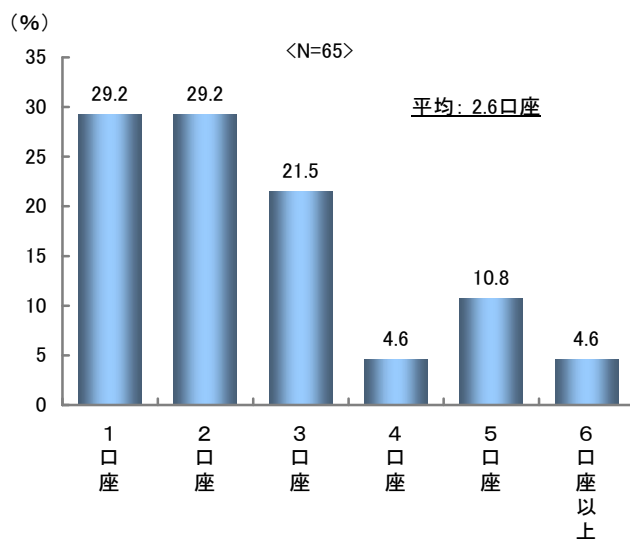


10 年以上使われていない「休眠預金」について、政府が有効利用を検討していることが発表され話題になっていますが、実際に“休眠預金”があるか聞いてみたところ、「ある」という人が1割強(13.0%)います。

・妻の年代別にみると、「ある」という割合は《20 代》(8.0%)、《30 代》(12.8%)、《40 代》(18.4%)と、40 代までは年代とともに高くなり《40 代》がピークで、《50 代》は 12.8%です。

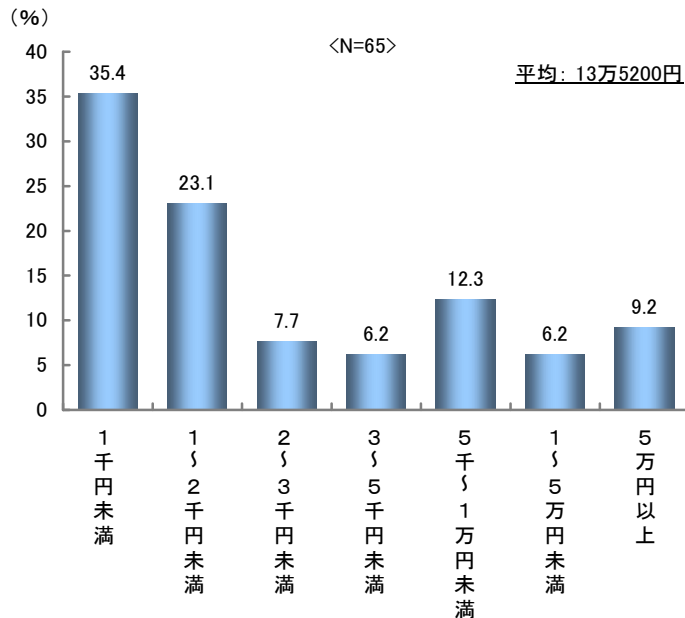
次に“休眠預金”が《ある》人(65 名)に、その口座数と合計金額を聞いてみました。

図 13. “休眠預金”の口座数



口座数は、「1口座」「2口座」(各 29.2%)が多く、次いで「3口座」(21.5%)となっており、“1～3口座”が5分の4(79.9%)を占めています。平均は「2.6 口座」です。

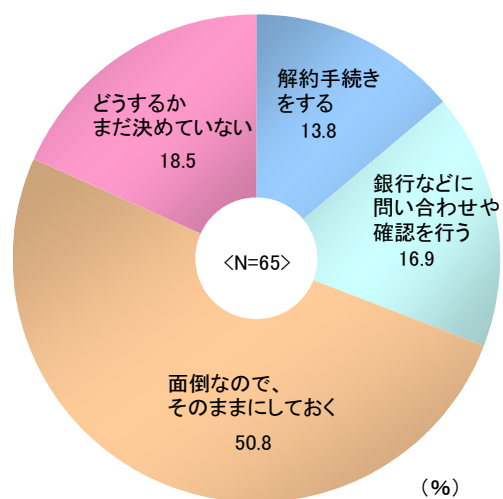
図 14. “休眠預金”の合計金額



次に“休眠預金”の合計金額をみると、「1千円未満」(35.4%)が最も多く、以下「1～2千円未満」(23.1%)、「5千～1万円未満」(12.3%)、「5万円以上」(9.2%)、「2～3千円未満」(7.7%)が続いています。合計金額“3千円未満”が3分の2(66.2%)を占めています。平均は「13 万 5200 円」です。

ちなみに、合計金額の最高は、「400 万円」(2口座合計:1名)、次いで「300 万円」(2口座合計:1名)となっています。

図 15. “休眠預金”の対処



では、“休眠預金”をどうしようと思っているのでしょうか。

「解約手続きをする」(13.8%)、あるいは「銀行などに問い合わせや確認を行う」(16.9%)など“何らかのアクションを起こす”という人は3割(30.7%)にとどまり、「面倒なので、そのままにしておく」という人が半数(50.8%)を占めています。

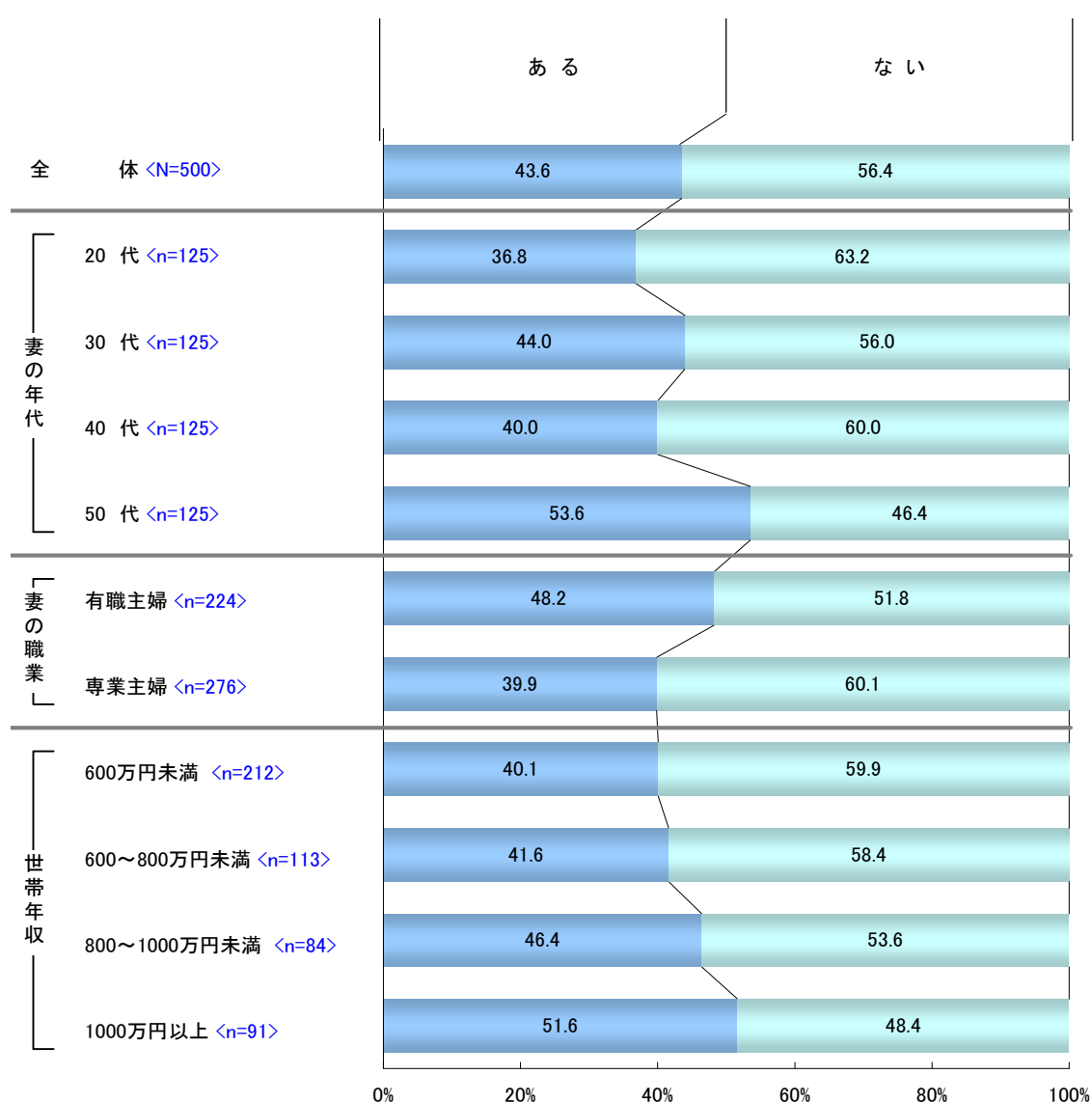
Ⅲ 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

4割強(43.6%)が『夫に内緒の資産』を“持っている”。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限られません。

図 16. 『夫に内緒の資産』の有無



サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いてみたところ、4割強(43.6%)が「ある」と回答しています。

- ・妻の年代別にみると、「ある」割合、すなわち保有率は《20 代》(36.8%)が最も低く、《30 代》《40 代》が4割台、《50 代》が5割強(53.6%)で最も高率です。
- ・妻の職業別にみると、保有率は《有職主婦》(48.2%)の方が《専業主婦》(39.9%)を8ポイントほど上回っています。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高くなるほど保有率も高くなっています。《600万円未満》の4割(40.1%)に対し、《1000万円以上》は5割強(51.6%)と、10ポイント以上の差があります。

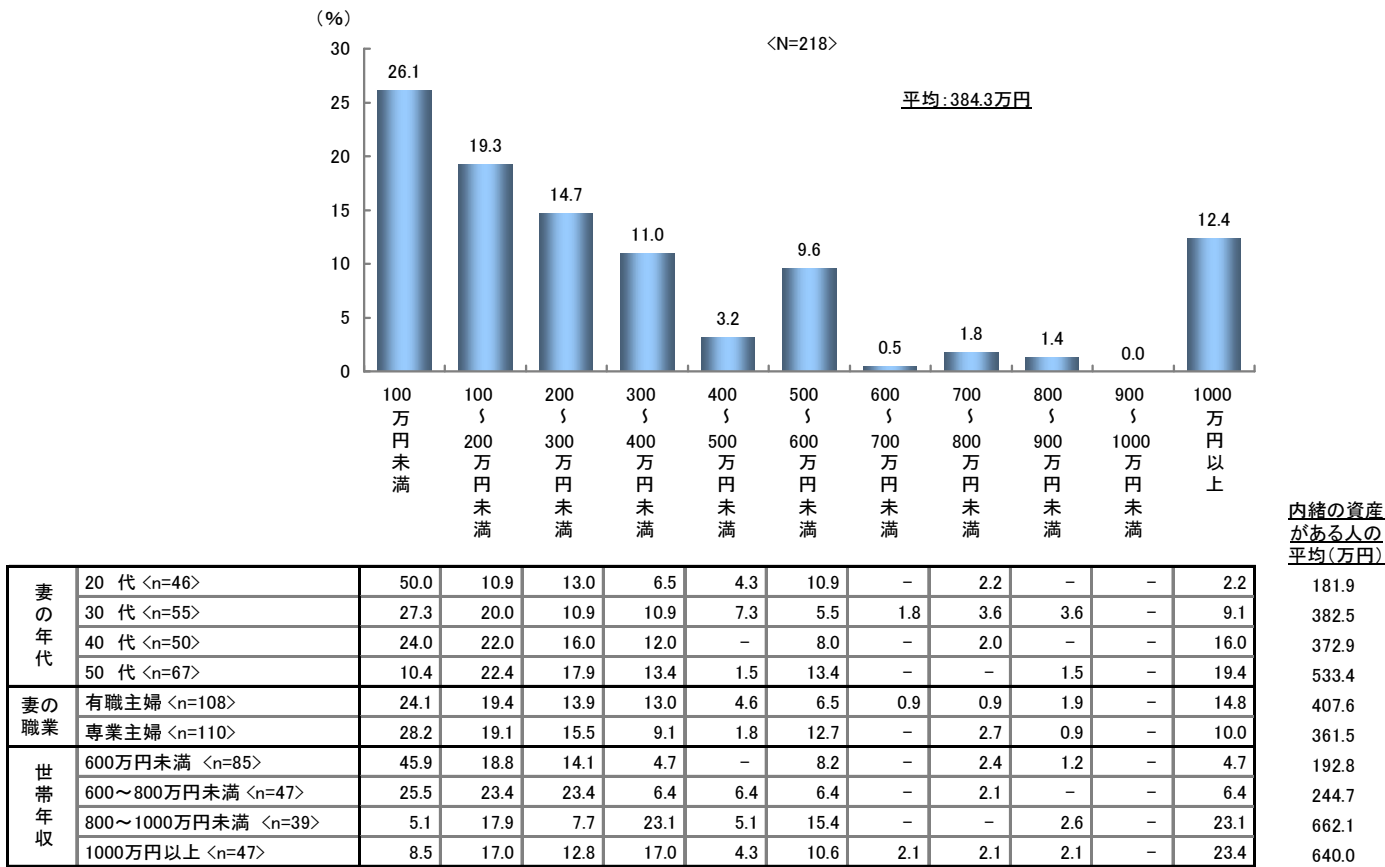
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、『夫に内緒の資産』を持っている人の割合は、44.7%→43.6%とほぼ横ばいとなっています。

2. 『夫に内緒の資産』の保有額

内緒の資産を持っている人の保有額は、「100 万円未満」(26.1%)が最も多く、平均額は「384.3 万円」。

図 17. 『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



次に、『夫に内緒の資産』を持っている人(218 名)にその金額を聞いてみたところ、「100 万円未満」(26.1%)が最も多く、以下「100～200 万円未満」(19.3%)、「200～300 万円未満」(14.7%)など、少ない金額ほど多くなっていますが「1000 万円以上」(12.4%)という人も1割以上いるのが目立ちます。資産保有者の平均額は「384.3 万円」です。

ちなみに、最高金額は「5000 万円」(1名)でした。

- ・妻の年代別に資産額の平均をみると、年代とともに金額が高くなる傾向がみられ、《50 代》(533.4 万円)では《20 代》(181.9 万円)の3倍近い値となっています。
- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》(407.6 万円)と《専業主婦》(361.5 万円)で約 46 万円の差がみられます。
- ・世帯年収別にみると、年収が高い家庭の主婦ほど資産額が高くなる傾向がみられます。《600 万円未満》(192.8 万円)、《600～800 万円未満》(244.7 万円)の層に比べ、“800 万円以上”になると平均が“600 万円台”と、大差がみられます。

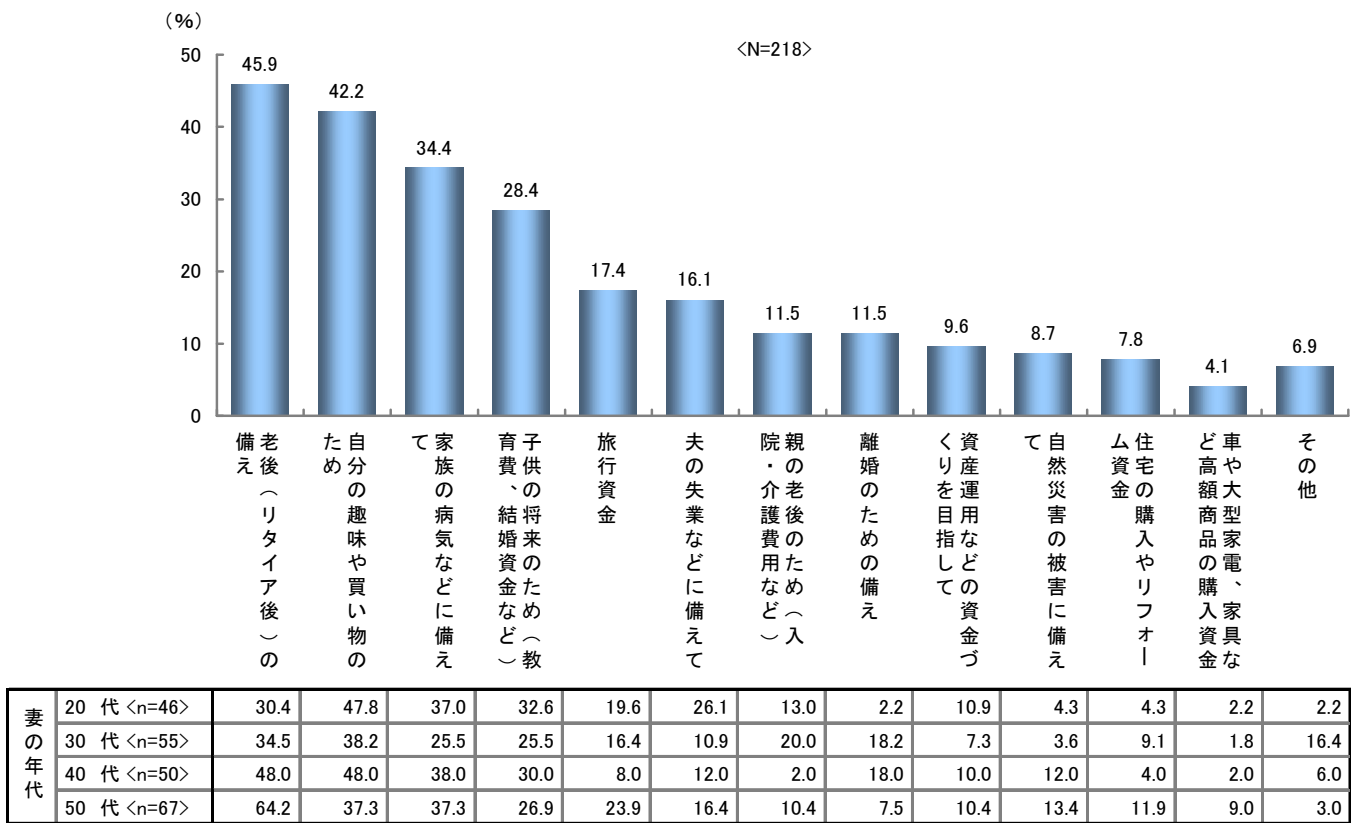
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、平均金額は 336.6 万円→384.3 万円と、約 50 万円アップしています。

3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的

「老後の備え」(45.9%)、「自分の趣味や買い物のため」(42.2%)、「家族の病気などに備えて」(34.4%)がトップ3。

図 18. 『夫に内緒の資産』を持つ目的（複数回答）



『夫に内緒の資産』をどのようなことに使うために持っているのかを聞いてみたところ、「老後（リタイア後）の備え」（45.9%）が第一で、以下「自分の趣味や買い物のため」（42.2%）、「家族の病気などに備えて」（34.4%）、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（28.4%）、「旅行資金」（17.4%）、「夫の失業に備えて」（16.1%）が続いています。中には「離婚のための備え」をあげる人が1割強（11.5%）います。

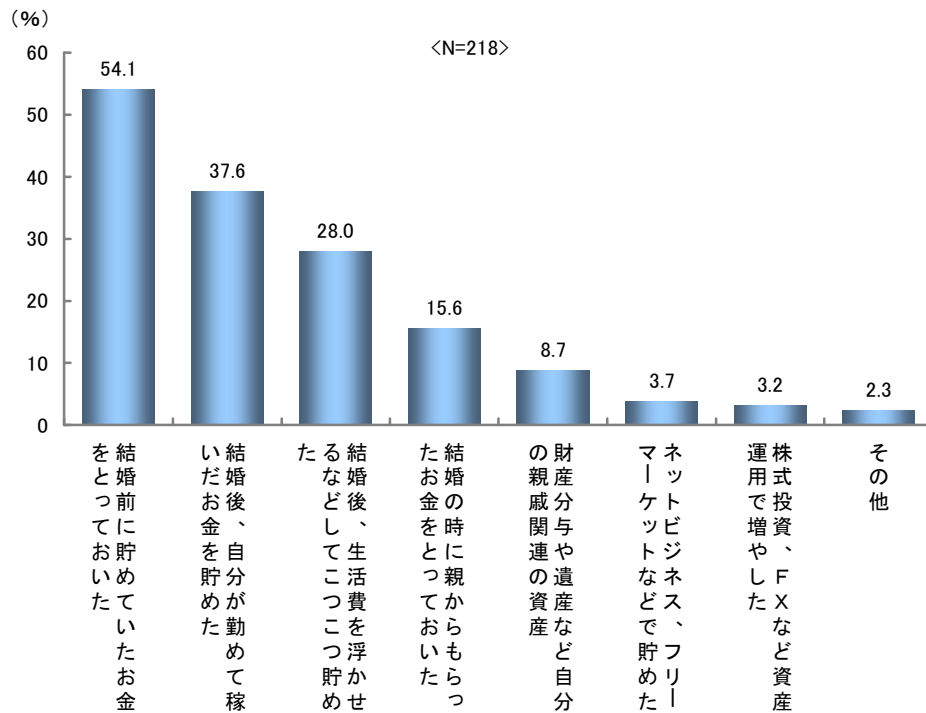
自分のために使うのはもちろんですが、“将来の備え”のために『夫に内緒の資産』を持っている主婦も多いようです。

- ・妻の年代別にみると、年代が上の人ほど「老後の備え」の割合が高く、《20代》（30.4%）と《50代》（64.2%）では2倍以上の値と、大差がみられます。《20代》、《30代》、《40代》では「自分の趣味や買い物のため」（順に47.8%、38.2%、48.0%）がトップ、《40代》は「老後の備え」も同率トップです。

4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(54.1%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(37.6%)、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(28.0%)など。

図 19. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(54.1%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(37.6%)があげられており、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。

以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(28.0%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(15.6%)などとなっています。

なお、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(8.7%)、「ネットビジネス、フリーマーケットなどで貯めた」(3.7%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(3.2%)がそれぞれ1割未満です。

表 10. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答：内緒の資産額別）

(%)

		サ ン プ ル 数	結 婚 前 に 貯 め て お い た お 金	結 婚 後 、 自 分 が 勤 め た お 金	結 婚 後 、 生 活 費 を 浮 か せ る な ど し て こ つ こ つ 貯 め た	結 婚 の 時 に 親 か ら も つ て お い た	財 産 分 与 や 遺 産 な ど 自 分 の 親 戚 関 連 の 資 産	貯 め た リ ー マ ー ケ ッ ト な ど で	株 式 投 資 、 F X な ど の 資 産 運 用 で 増 や し た	そ の 他
全 体		218	54.1	37.6	28.0	15.6	8.7	3.7	3.2	2.3
内 緒 の 資 産	100万円未満	57	35.1	38.6	42.1	7.0	1.8	7.0	-	3.5
	100～200万円未満	42	52.4	35.7	16.7	11.9	4.8	-	2.4	2.4
	200～300万円未満	32	65.6	34.4	18.8	21.9	6.3	3.1	-	-
	300～500万円未満	31	64.5	35.5	35.5	16.1	9.7	-	3.2	6.5
	500～1000万円未満	29	65.5	34.5	24.1	20.7	20.7	3.4	6.9	-
	1000万円以上	27	59.3	48.1	22.2	25.9	18.5	7.4	11.1	-

参考までに内緒の資産額別の傾向をみると、《100 万円未満》では「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(42.1%)が、《100 万円以上》では「結婚前に貯めておいたお金をとっておいた」(各5割台～6割台)がそれぞれトップです。

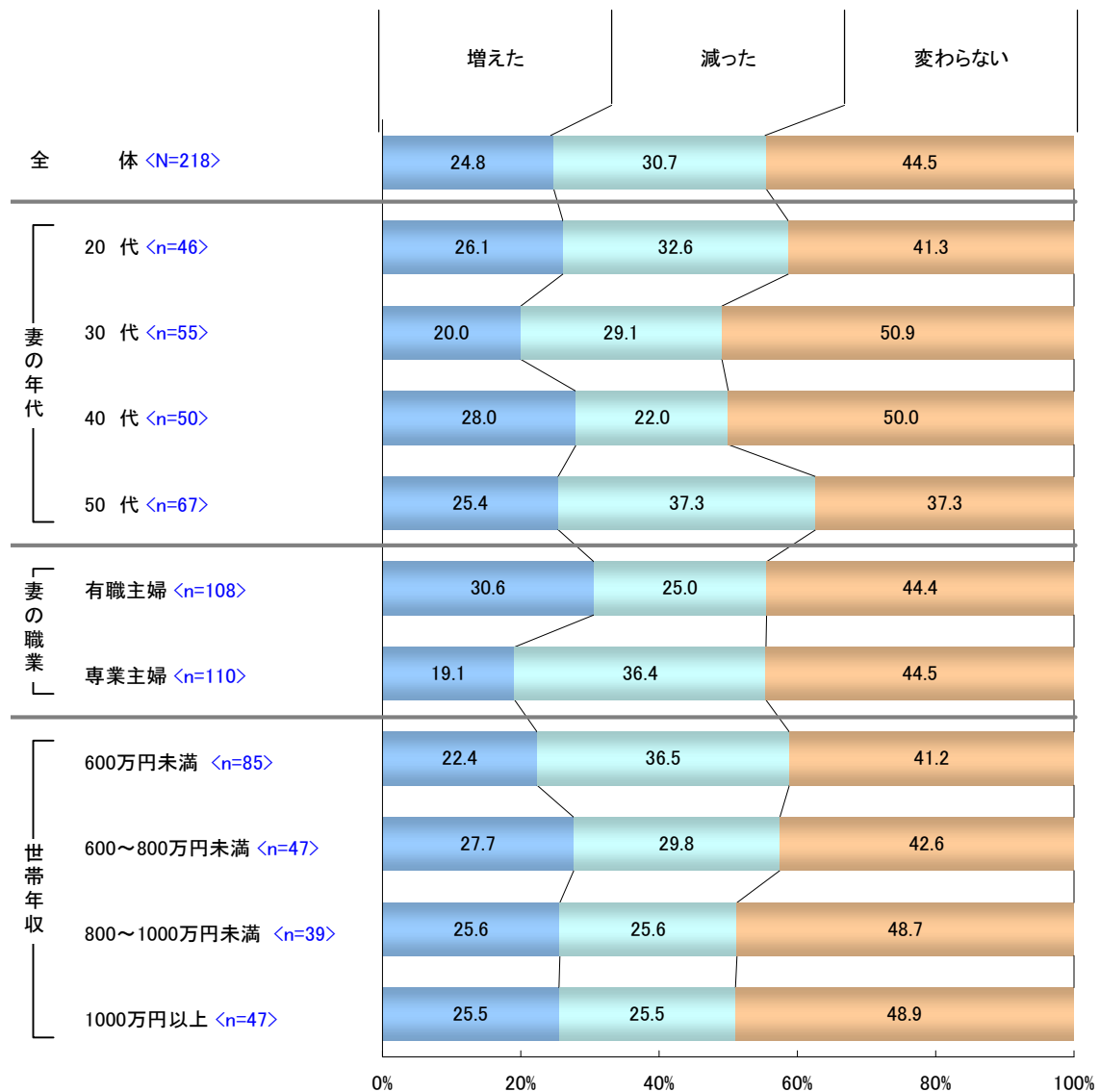
5. 『夫に内緒の資産』の増減

今年に入ってから増減は、「減った」(30.7%)が「増えた」(24.8%)を上回る。

◆増えた理由は、「自分の収入や夫の収入が増えた」(38.9%)、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(37.0%)が主。

◆減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(44.8%)が第一。

図 20. 今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減



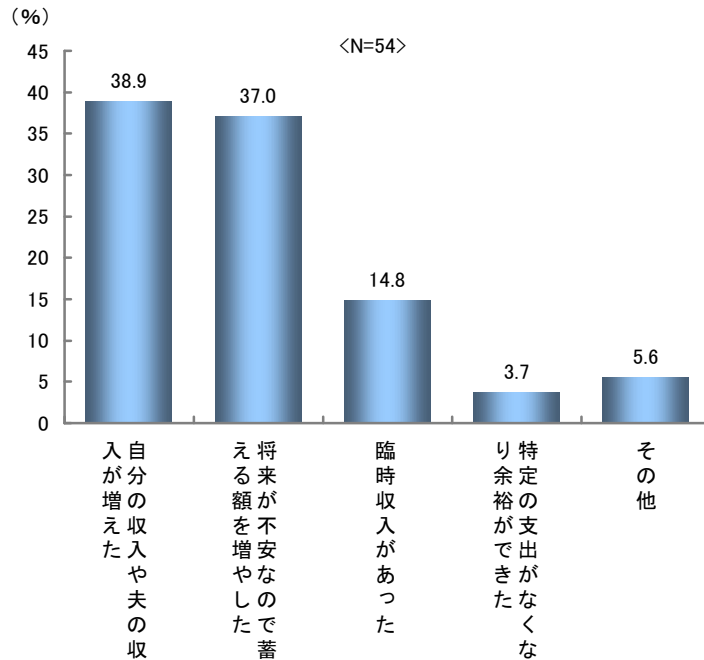
今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減を聞いてみたところ、「変わらない」(44.5%)が4割以上を占めていますが、「減った」人(30.7%)の方が「増えた」(24.8%)人を上回っています。

- ・妻の年代別にみると、《40代》で「増えた」(28.0%)が「減った」(22.0%)を上回っているのが特徴的です。
- ・妻の職業別にみると、「増えた」は《有職主婦》(30.6%)の方が《専業主婦》(19.1%)を 11 ポイントほど上回っています。
- ・世帯年収別にみると、《800～1000万円未満》《1000万円以上》では「増えた」と「減った」が同率です。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「増えた」(21.0%→24.8%)がやや増加、「減った」(29.5%→30.7%)は横ばいという結果です。その分「変わらない」(49.4%→44.5%)が減っています。

図 21. 『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由

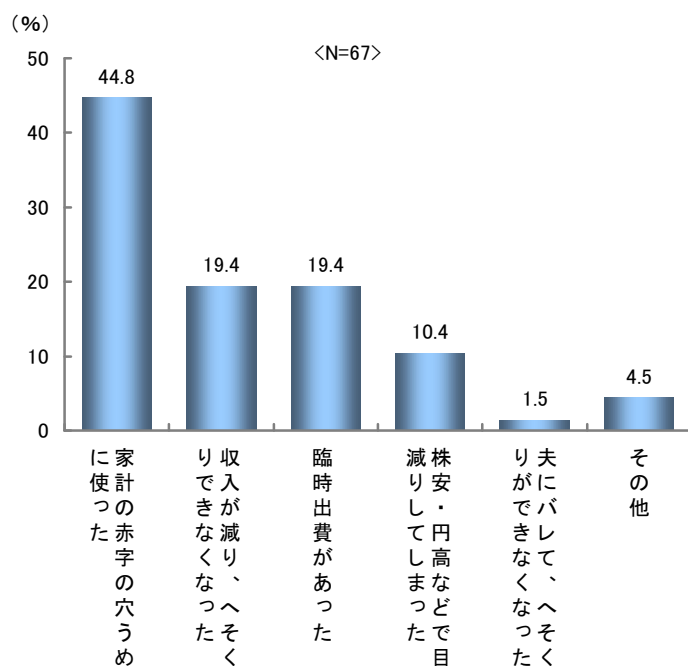


増えた人(54 名)の理由をみると、「自分の収入や夫の収入が増えた」(38.9%)と「将来が不安なので蓄える額を増やした」(37.0%)が主になっています。また、“定期預金の満期”、“保険の満期”、“遺産相続”、“株を売った”、“オークションで高く売れた”など「臨時収入があった」(14.8%)という人もいます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、「自分や夫の収入が増えた」(31.9%→38.9%)が7ポイント増えてトップ、昨夏でトップの「将来が不安なので蓄える額を増やした」(39.4%→37.0%)はやや減少し、今夏は2位になっています。

図 22. 『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



一方、減った人(67 名)の理由は「家計の赤字の穴うめに使った」(44.8%)が群を抜いています。そのほかでは「収入が減り、へそくりできなくなった」「臨時出費があった」(各 19.4%)、「株安・円高などで目減りしてしまった」(10.4%)などとなっています。

なお、「臨時出費があった」(19.4%)の具体的な内容としては、“冠婚葬祭”、“夫の手術・入院費”、“事業の開業資金”、“旅行”、“子供の運転免許取得のため”などがあげられています。

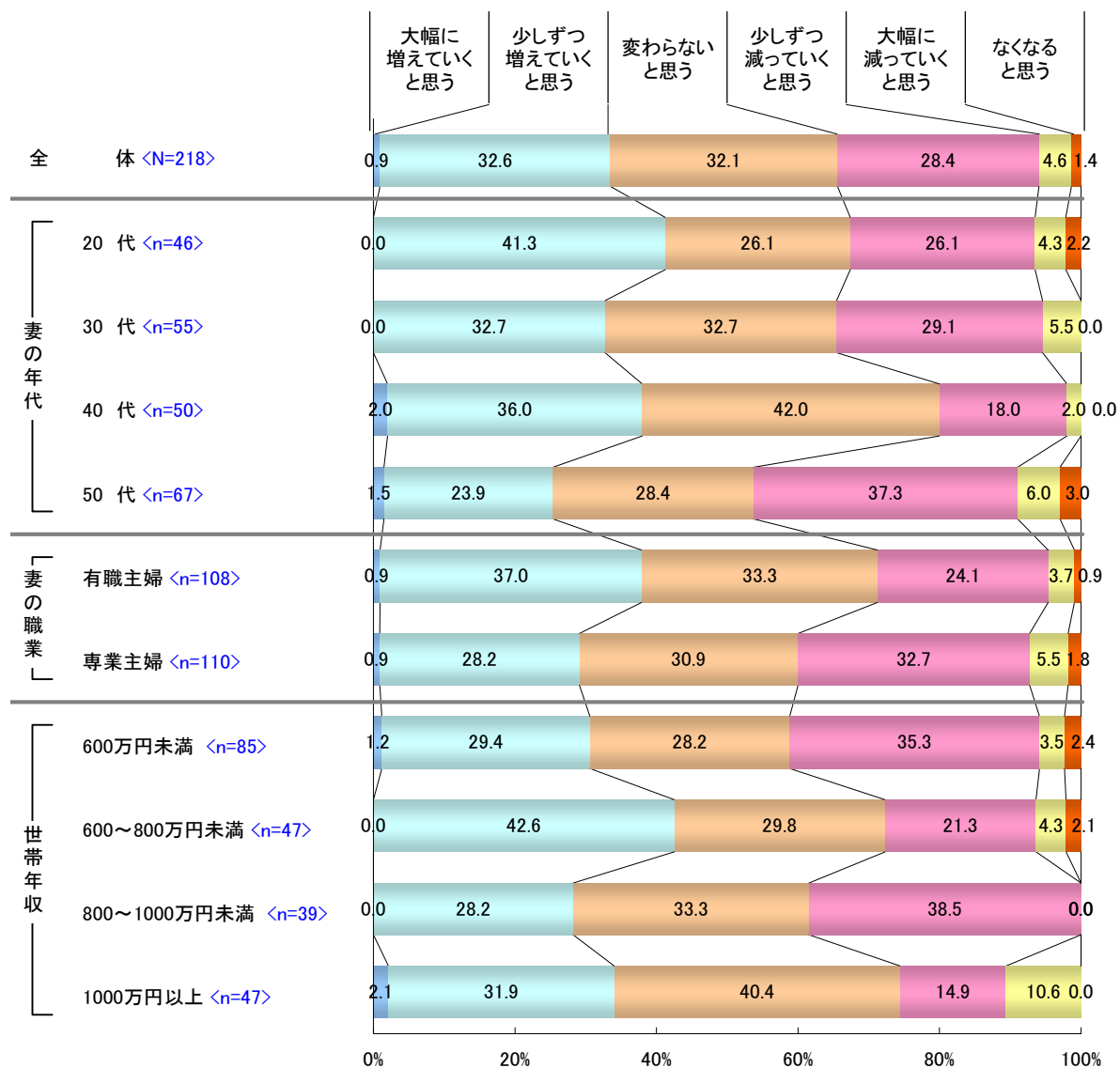
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、昨夏もトップの「家計の赤字の穴うめに使った」(36.4%→44.8%)が8ポイントほど増えています。

6. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し

夫に内緒の資産の今後の見通しは、“増えていく”(33.5%)、「変わらない」(32.1%)、“減る+なくなる”(34.4%)と、見解がほぼ三分。

図 23. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している人に、今後の資産増減の見通しについて聞いてみたところ、「大幅に増えていくと思う」(0.9%)「少しずつ増えていくと思う」(32.6%)など“増えていくと思う”(33.5%)という人が3人に1人の割合となっています。一方、「大幅に減っていくと思う」(4.6%)、「少しずつ減っていくと思う」(28.4%)、さらに「なくなると思う」(1.4%)など“減っていく+なくなると思う”(34.4%)という人も同程度みられます。また、「変わらないと思う」も3割強(32.1%)みられ、見解が三分されています。

- ・妻の年代別にみると、“増えていくと思う”は《20代》(41.3%)が最も高く、《50代》(25.4%)が最も低くなっています。若い《20代》は“増やしていこう”という意気込みが感じられます。
- ・妻の職業別にみると、“増えていくと思う”は《有職主婦》(37.9%)が《専業主婦》(29.1%)より高めです。

・世帯年収別にみると、年収が高い人ほど「変わらないと思う」割合が高くなっています。“増えていくと思う”割合は《600～800 万円未満》(42.6%)の層が、“減っていく＋なくなると思う”は《600 万円未満》(41.2%)の層が、ともに最も高くなっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、“増えていく”(37.1%→33.5%)や「変わらない」(43.4%→32.1%)との見方は減っていますが、その分、“減る＋なくなる”(19.5%→34.4%)が大幅に増えています。

表 11. 『夫に内緒の資産』の見通しの理由（自由回答：件）

増えていくと思う理由			減っていくと思う理由			変わらないと思う理由		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	働き始めたから・まだ働くつもりだから	19	1	収入が減っているため	14	1	特に使う予定がないから	14
2	継続して貯めているため	14	2	生活費に充てているから	12	2	増やす気がないから・手を付けないうもりだから	11
3	生活費などを節約しているから	8	3	自分が仕事を辞めたから	11	3	収入の増減の予定がないため	7
	増やしたいという気持ちがあるから	8	4	子供の教育費などに回すから	10	4	増やす余裕がないから	4
			5	使う機会が増えているから	7	5	貯めた分だけ使っているから	3
			6	夫の定年が近いから・定年になったので	6			

『夫に内緒の資産』の見通しについて、その理由を具体的に聞いてみました。

“増えていくと思う”理由は、「働き始めたから・まだ働くつもりだから」(19 件)、「継続して貯めているため」(14 件)、「生活費などを節約しているから」「増やしたいという気持ちがあるから」(各8件)があげられています。

“減っていくと思う”理由としては、「収入が減っているため」(14 件)が最も多く、以下「生活費に充てているから」(12 件)、「自分が仕事を辞めたから」(11 件)、「子供の教育費などに回すから」(10 件)などがあげられています。

“変わらないと思う”理由は、「特に使う予定がないから」(各 14 件)、「増やす気がないから・手を付けないうもりだから」(11 件)、「収入の増減の予定がないため」(7件)などとなっています。

Ⅳ 東日本大震災後の主婦のライフスタイル

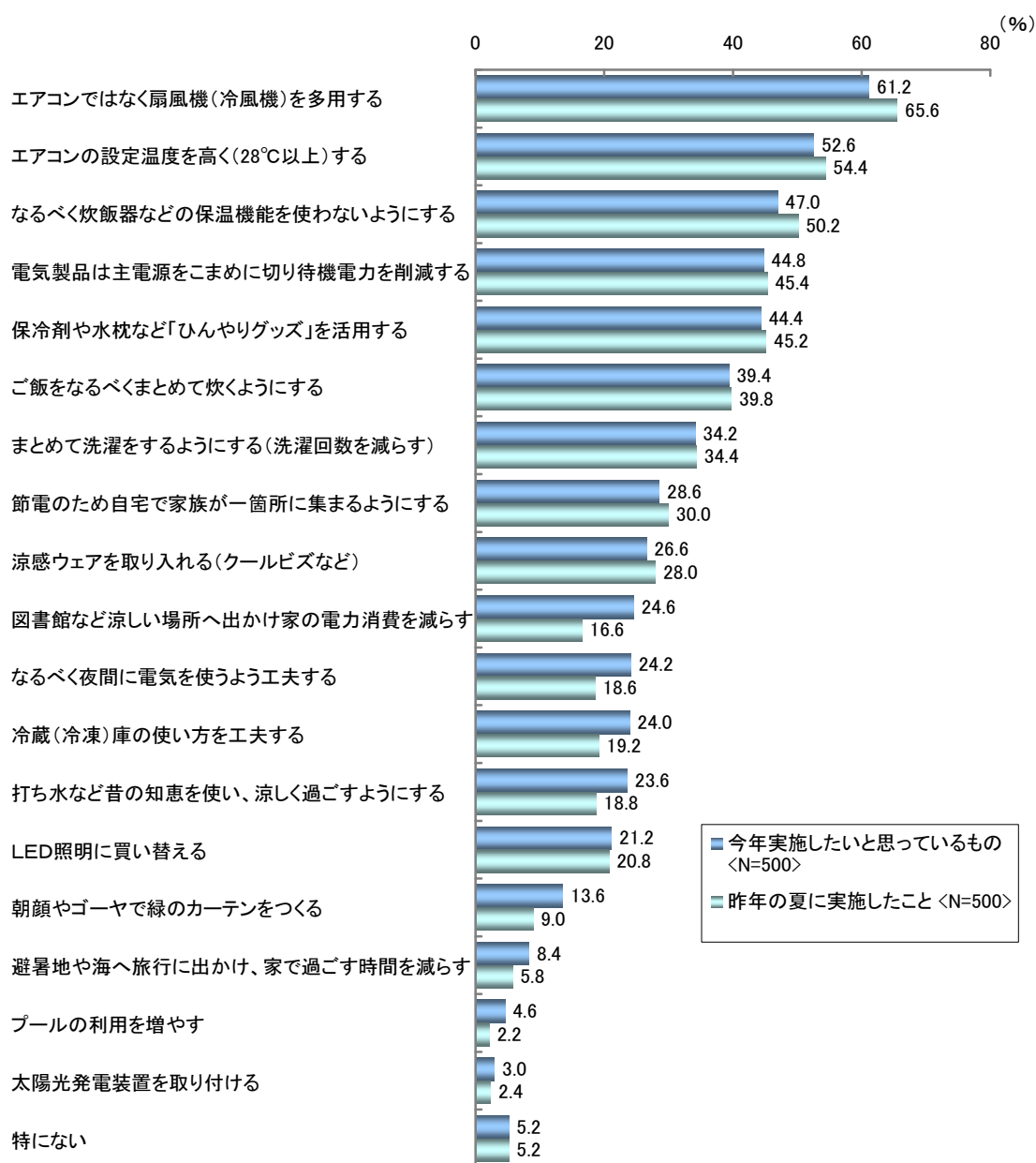
※東日本大震災から1年以上経過した現在、主婦の生活や意識など、ライフスタイルはどのようになっているのでしょうか。ここでは、主婦の現在のライフスタイルの一面を探ってみました。

1. 今年実施したいと思っている節電やエコ等に関わる工夫

「エアコンではなく扇風機(冷風機)を多用する」(61.2%)、「エアコンの設定温度を高く(28℃以上)する」(52.6%)、「なるべく炊飯器などの保温機能を使わないようにする」(47.0%)がトップ3。

◆昨年実施した工夫も、「エアコンではなく扇風機(冷風機)を多用する」(65.6%)、「エアコンの設定温度を高く(28℃以上)する」(54.4%)、「なるべく炊飯器などの保温機能を使わないようにする」(50.2%)がトップ3。

図 24. 今年実施したいと思っている節電やエコ等に関わる工夫（複数回答）



計画停電などがあった昨年の夏、節電やエコ等に関わるいろいろな工夫をした家庭も多かったと思います。では、今年はどうな工夫を実施したいと思っているのでしょうか。

「エアコンではなく扇風機(冷風機)を多用する」(61.2%)が最も多く、続く「エアコンの設定温度を高く(28℃以上)する」(52.6%)の2つを半数以上が実施したいと思っています。以下「なるべく炊飯器などの保温機能を使わないようにする」(47.0%)、「電気製品は主電源をこまめに切り待機電力を削減する」(44.8%)、「保冷剤や水枕など『ひんやりグッズ』を活用する」(44.4%)、「ご飯をなるべくまとめて炊くようにする」(39.4%)、「まとめて洗濯をするようにする(洗濯回数を減らす)」(34.2%)などとなっています。

次に、＜昨年の夏に実施したこと＞をみると、「エアコンではなく扇風機(冷風機)を多用する」(65.6%)が今夏同様トップ、以下「エアコンの設定温度を高く(28℃以上)する」(54.4%)、「なるべく炊飯器などの保温機能を使わないようにする」(50.2%)、「電気製品は主電源をこまめに切り待機電力を削減する」(45.4%)、「保冷剤や水枕など『ひんやりグッズ』を活用する」(45.2%)などが続いています。

今夏も、1位～9位までが昨夏と同じ項目があげられています。

しかし、9位までの上位の項目は昨夏の実施率より、すべて低めになっています。

一方、今夏実施したいと思う割合が低い項目では、昨夏の実施率を上回っているのが目立ちます。以下、それらを列記します。

- | | | |
|-----------------------------|---------------|-------|
| ・「図書館など涼しい場所へ出かけ家の電力消費を減らす」 | (16.6%→24.6%) | +8.0% |
| ・「なるべく夜間に電気を使うよう工夫する」 | (18.6%→24.2%) | +5.6% |
| ・「冷蔵(冷凍)庫の使い方を工夫する」 | (19.2%→24.0%) | +4.8% |
| ・「打ち水など昔の知恵を使い、涼しく過ごすようにする」 | (18.8%→23.6%) | +4.8% |
| ・「朝顔やゴーヤで緑のカーテンをつくる」 | (9.0%→13.6%) | +4.6% |

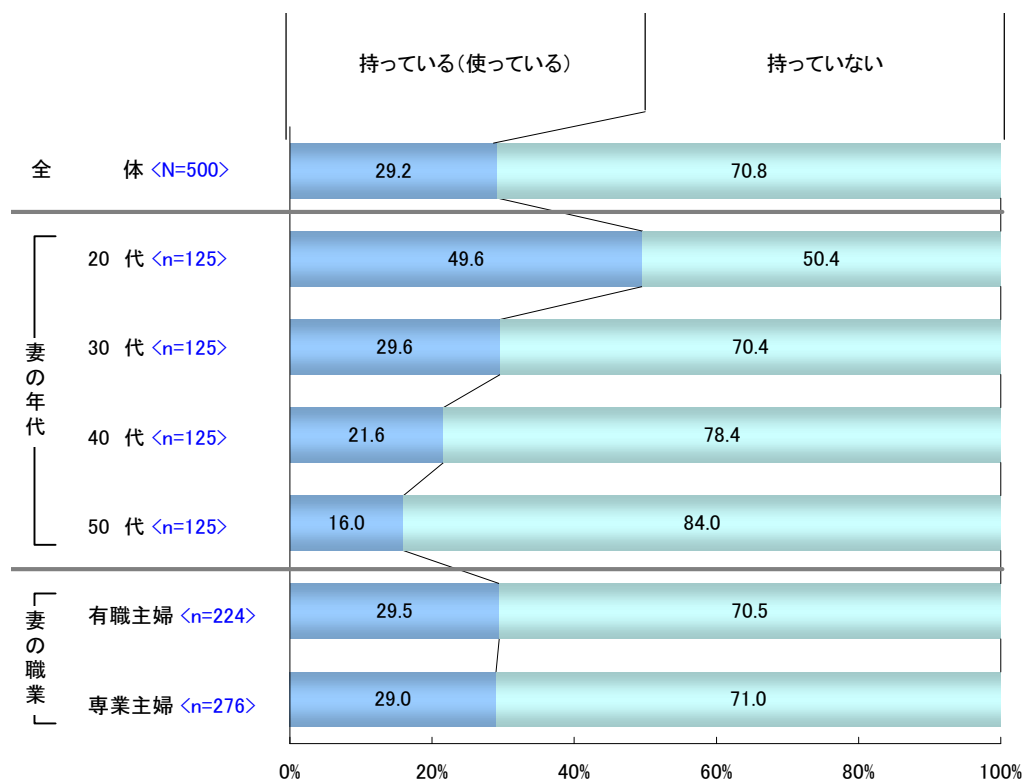
- ・今年実施したいと思っているものを、妻の年代別にみると、年齢が上の人ほど「電気製品は主電源をこまめに切り待機電力を削減する」「打ち水など昔の知恵を使い、涼しく過ごすようにする」「朝顔やゴーヤで緑のカーテンをつくる」をあげる割合が高くなっています。一方、若い人ほど高率なのは、「ご飯をなるべくまとめて炊くようにする」「まとめて洗濯をするようにする(洗濯回数を減す)」「図書館など涼しい場所へ出かけ家の電力消費を減らす」「避暑地や海へ旅行に出かけ、家で過ごす時間を減らす」などです。

2. 『スマートフォン』を持っているか

10人に3人がスマートフォンを「持っている(使っている)」(29.2%)。

◆利用率(よく+たまに利用する)は、「料理(レシピを調べるなど)」(71.3%)がトップ、以下「グルメ(飲食店)情報を調べる」(67.8%)、「クーポン・割引券を入手する」(64.4%)、「ソーシャルメディアの閲覧、書き込み」(54.8%)など。

図 25. 『スマートフォン』を持っているか

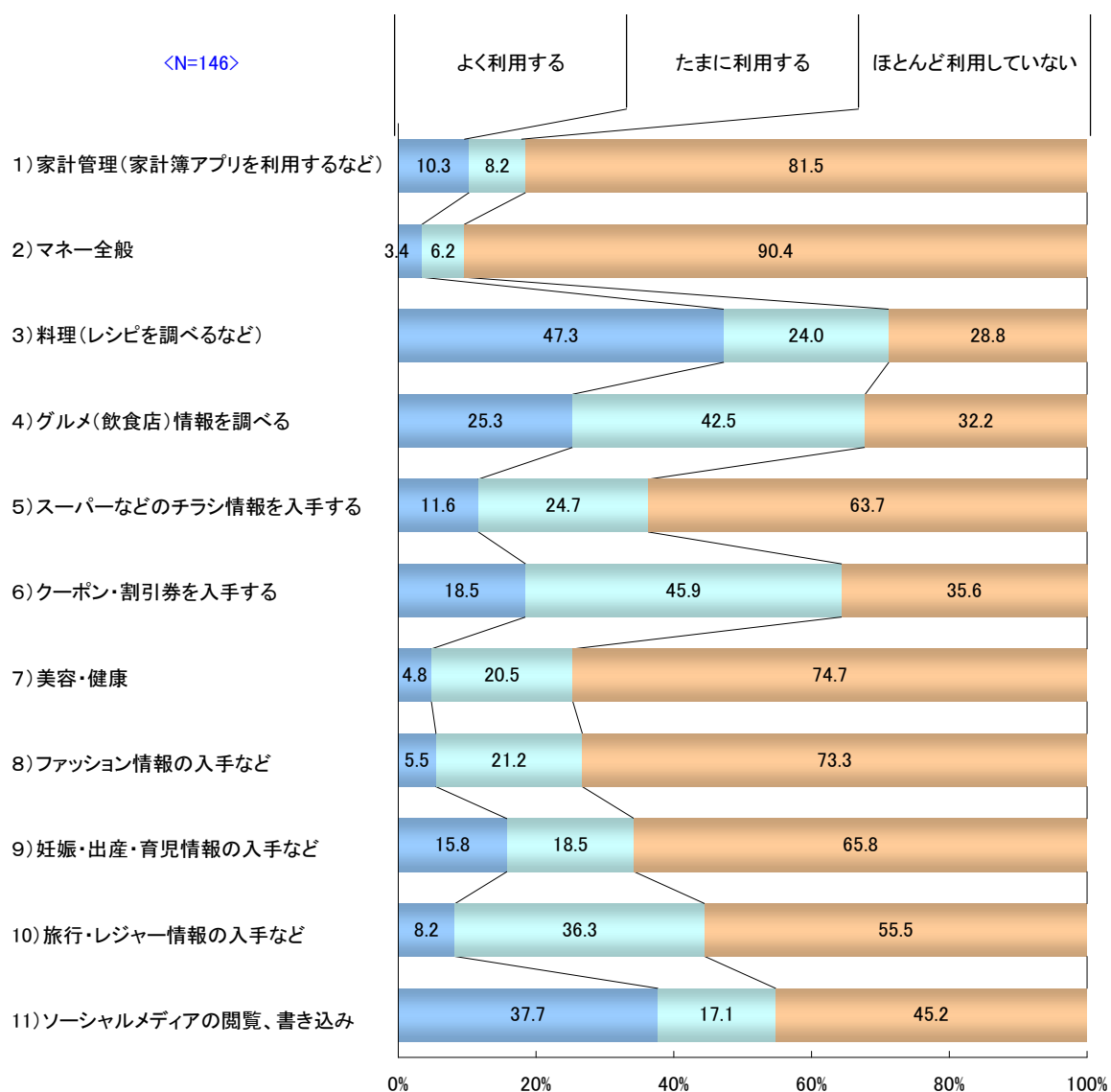


『スマートフォン』を「持っている(使っている)」(29.2%)という人は10人に3人の割合です。

・妻の年代別にみると、若い人ほど「持っている」割合が高く、《20代》では49.6%とほぼ2人に1人の割合に達しています。

・妻の職業別にみると、「持っている」割合は《有職主婦》(29.5%)、《専業主婦》(29.0%)と、差はありません。

図 26. スマートフォンの用途別利用状況



「よく利用する」、「たまに利用する」を合わせた利用率をみると、「料理(レシピを調べるなど)」(71.3%)が最も高く、次いで「グルメ(飲食店)情報を調べる」(67.8%)、「クーポン・割引券を入手する」(64.4%)、「ソーシャルメディアの閲覧、書き込み」(54.8%)が続き、この4つの用途は利用者の半数以上が利用しています。以下「旅行・レジャー情報の入手など」(44.5%)、「スーパーなどのチラシ情報を入手する」(36.3%)、「妊娠・出産・育児情報の入手など」(34.3%)などとなっています。

表 12. スマートフォンの利用率（よく＋たまに利用する）

(%)

	サンプル数	家計管理（家計簿アプリを利用するなど）	マネー全般	料理（レシピを調べるなど）	グルメ（飲食店）情報を調べる	スーパーなどのチラシ情報を入手する	クーポン・割引券を入手する	美容・健康	ファッション情報の入手など	妊娠・出産・育児情報の入手など	旅行・レジャー情報の入手など	ソーシャルメディアの閲覧、書き込み	非該当
全 体	146	18.5	9.6	71.3	67.8	36.3	64.4	25.3	26.7	34.3	44.5	54.8	7.5
妻の年代	20 代	62	27.4	9.7	82.3	80.6	43.5	69.4	38.7	37.1	61.3	71.0	1.6
	30 代	37	18.9	13.5	75.7	67.6	43.2	73.0	16.2	21.6	27.0	40.5	10.8
	40 代	27	3.7	7.4	55.6	48.1	25.9	55.6	18.5	22.2	3.7	29.6	48.1
	50 代	20	10.0	5.0	50.0	55.0	15.0	45.0	10.0	10.0	5.0	20.0	30.0
職業	有職主婦	66	19.7	12.1	68.2	66.7	30.3	65.2	25.8	28.8	19.7	40.9	56.1
	専業主婦	80	17.5	7.5	73.8	68.8	41.3	63.8	25.0	25.0	46.3	47.5	53.8

・妻の年代別にみると、全般的に若い人ほど高率を示す用途が多く、若い人ほどスマートフォンをいろいろな用途で使っていることがうかがえます。

・妻の職業別にみると、「料理（レシピを調べるなど）」「スーパーなどのチラシ情報を入手する」「妊娠・出産・育児情報の入手など」「旅行・レジャー情報の入手など」の利用率は、《有職主婦》より《専業主婦》の方が高くなっています。

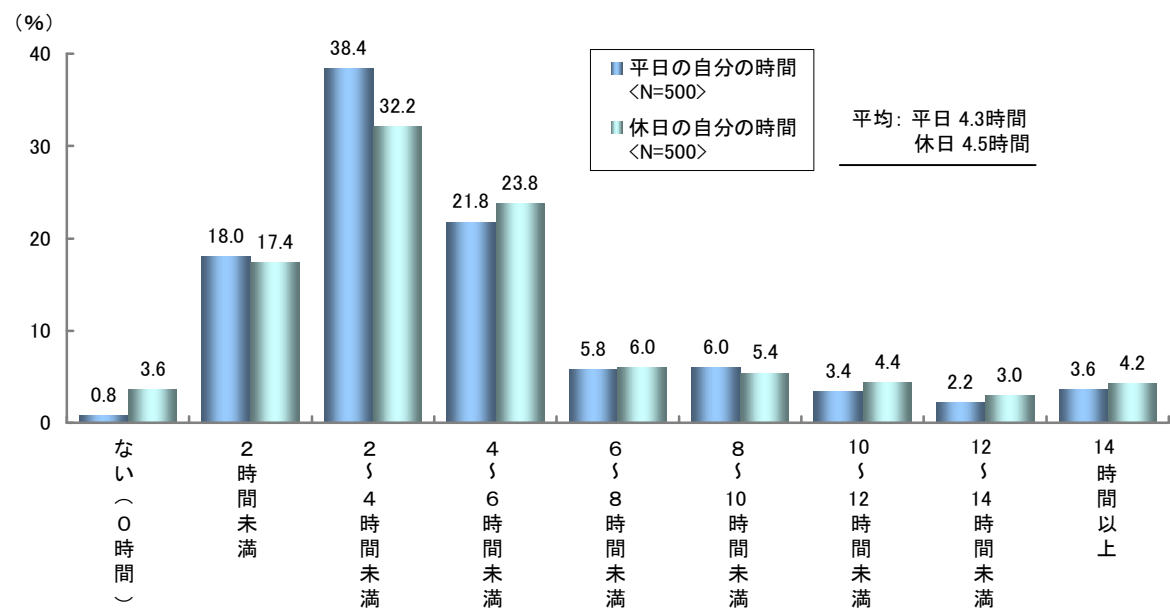
3. 1日のうち“自分の時間”はどのくらいあるか

＜平日の自分の時間＞は平均「4.3時間」、＜休日の自分の時間＞は平均「4.5時間」。

◆自分の時間がとれた時は、「TV・DVDなどを見る」(66.2%)、「昼寝」(44.8%)、「読書」(34.6%)、「雑誌や新聞を読む」(32.6%)などをしている。

◆自分の時間を増やすためには、「家事を効率的にこなす・早く済ます」(102 件)が第一。

図 27. 自分の時間＜平日＞と＜休日＞



まず、＜平日の自分の時間＞をみると、「2～4時間未満」(38.4%)という人が最も多く、以下「4～6時間未満」(21.8%)、「2時間未満」(18.0%)、「8～10 時間未満」(6.0%)となっています。平均は「4.3時間」です。

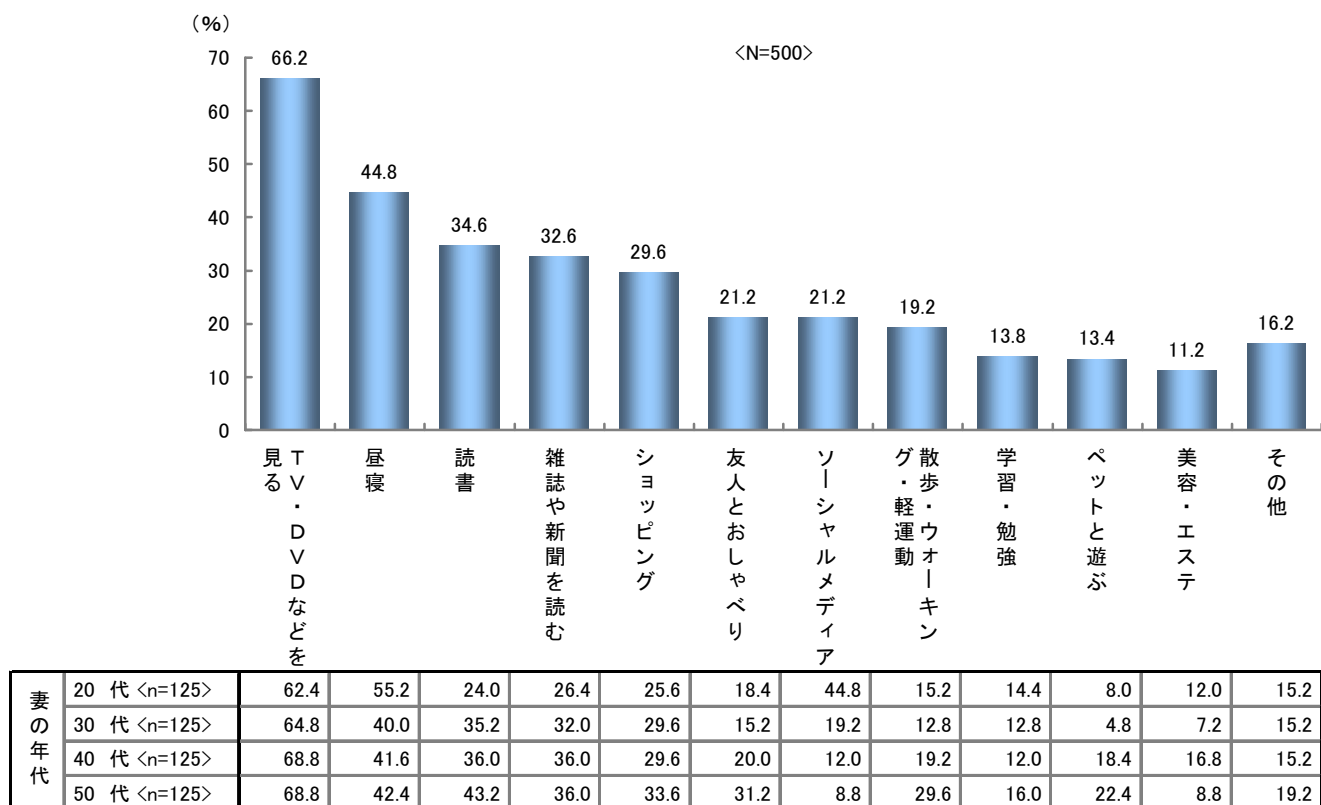
次に、＜休日の自分の時間＞をみると、平日同様「2～4時間未満」(32.2%)が最も多く、以下「4～6時間未満」(23.8%)、「2時間未満」(17.4%)、「6～8時間未満」(6.0%)が続いています。平均は「4.5時間」で、＜平日＞よりやや長くなっています。

表 13. 自分の時間＜平日＞と＜休日＞（属性別平均）
(時間)

		サンプル数	平日	休日
全 体		500	4.3	4.5
妻の年代	20 代	125	4.2	4.4
	30 代	125	3.4	3.3
	40 代	125	4.4	4.6
	50 代	125	5.5	5.9
職業	有職主婦	224	3.0	4.8
	専業主婦	276	5.4	4.3

- ・妻の年代別に平均時間をみると、＜平日＞＜休日＞とも《50 代》(順に 5.5 時間、5.9 時間)が最も長くなっています。なお、＜平日＞＜休日＞とも《30 代》(順に 3.4 時間、3.3 時間)が最も短くなっています。
- ・妻の職業別にみると、＜平日＞の平均は《有職主婦》(3.0 時間)と《専業主婦》(5.4 時間)の間に2時間以上の差が生じていますが、＜休日＞は《有職主婦》(4.8 時間)、《専業主婦》(4.3 時間)の間の差はあまり大きくありません。

図 28. “自分の時間”がとれた時には、主にどのようなことをしているか（複数回答）



次に、“自分の時間”がとれた時には、主にどのようなことをしているかをみると、「TV・DVDなどを見る」(66.2%)が最も多く、以下「昼寝」(44.8%)、「読書」(34.6%)、「雑誌や新聞を読む」(32.6%)、「ショッピング」(29.6%)、「友人とおしゃべり」「ソーシャルメディア」(各 21.2%)などとなっています。

- ・妻の年代別にみると、若い人ほど「昼寝」「ソーシャルメディア」をあげる割合が高く、《20 代》ではそれらが順に 55.2%、44.8%と他の年代に比べて高率なのが特徴的です。それ以外の項目では《50 代》が最も高率を示して項目が多くなっています。

表 14. “自分の時間”を増やすためにしている工夫

順位		件数
1	家事を効率的にこなす・早く済ます	102
2	子供を早く寝かす	36
3	家事を家族と分担する	33
4	一日のスケジュールを決める	31
	料理を簡単に済ます・料理の時短	31
6	早起きする	17
7	早い時間に家事を済ませる	13
	便利家電やグッズを利用する	13
9	家事の手を抜く・時間をかけすぎない	11
10	買い物の時間を短縮する・買いだめする	8
11	合間の時間を大切に使う	6
	自分の仕事の時間を減らす	6

“自分の時間”を増やすために、どのような工夫をしているか、具体的に聞いてみたところ、「家事を効率的にこなす・早く済ませる」(102 件)という人が断然多くなっています。そのほかでは「子供を早く寝かす」(36 件)、「家事を家族と分担する」(33 件)、「一日のスケジュールを決める」「料理を簡単に済ます・料理の時短」(各 31 件)などがあげられています。いずれにしる“家事の時間を工夫する”のがコツのようです。

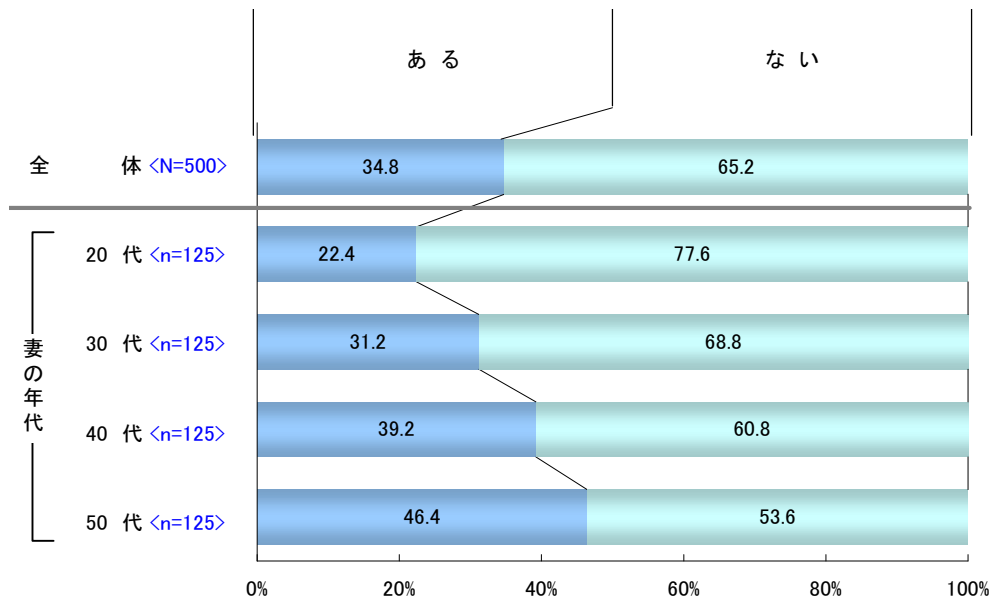
4. “D I Y” をしたこと

3人に1人強が「ある」(34.8%)。

◆DIY作品は、「日用品・雑貨類(クッション・ゴミ箱など)」(42.5%)、「収納箱、ラック」(39.7%)、「買い物袋・バッグ」(29.9%)、「衣料品」(29.3%)など、多岐にわたっている。

◆DIYをする最大の理由は、「作ることが楽しいので」(42.0%)が第一。

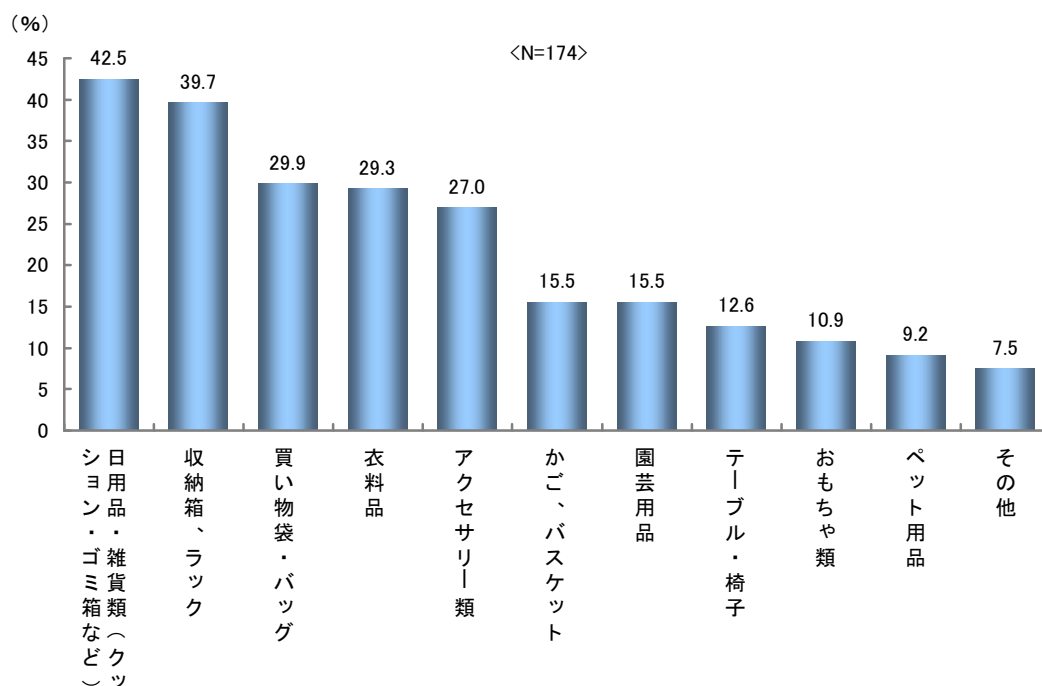
図 29. “D I Y” をしたこと



最近、“DIY女子”という言葉をよく見聞しますが、DIYをしたことが「ある」という人は 34.8%と、3人に1人強の割合です。

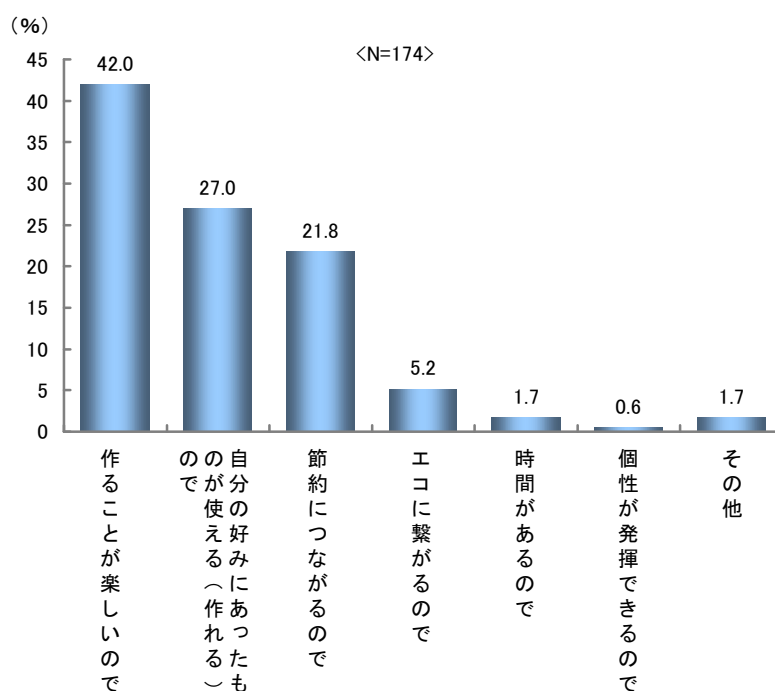
・妻の年代別にみると、年齢が上の人ほど「ある」という割合が高く、《20 代》では2割強(22.4%)にとどまっていますが、《50 代》(46.4%)では4割以上に達しています。

図 30. D I Yで作った作品（複数回答）



次に、DIYで作った作品をみると、「日用品・雑貨類(クッション・ゴミ箱など)」(42.5%)が最も多く、以下「収納箱、ラック」(39.7%)、「買い物袋・バッグ」(29.9%)、「衣料品」(29.3%)、「アクセサリー類」(27.0%)など、作品は多岐にわたっています。

図 31. D I Yをする最大の理由



なぜ、DIYをするのか、その最大の理由をみると、「作ることが楽しいので」(42.0%)が最も多く、次いで「自分の好み(使える・作れる)のもの」(27.0%)、「節約につながる」(21.8%)となっています。また、少数派ですが「エコに繋がるので」(5.2%)という人もいます。